

2019年度入学者用

履修の手引

薬学部

医療創生大学

医療創生大学の教育理念・目的

科学的^{サイエンス}根拠に基づいた^{アート}術を備えた^{ハート}慈愛のある医療人の創生

医療創生大学の教育方針

医療創生大学は、「科学的^{サイエンス}根拠に基づいた^{アート}術を備えた^{ハート}慈愛のある医療人の創生」という教育理念（目標）に基づいて教育研究活動を行い、社会に有為な保健医療人材の養成を目指しています。

教育理念（目標）の実現に向けて、本学で何をどのように学び、卒業時・修了時に、何を身につけたか、何ができるようになったかという観点から、本学の特色を踏まえたディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）を策定しています。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

医療創生大学（以下本学）は、教育理念に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して保健医療人としての基本的な問題を解決することができる。
2. 多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。
3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。
4. 社会に貢献できる保健医療人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、教育理念を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

1. 大学での学修の意義を理解し、大学生としての学修に必要な基礎的能力や生活習慣を身につけることができるよう、初年次教育科目を配置します。
2. 幅広く多様な基礎的知識と基本的な学修能力を獲得するための全学共通カリキュラムとして、基礎科目、教養科目、健康・スポーツ科目の3つの科目群を設置します。
3. 各学部学科に専門教育科目を設置し、専門的な知識・技術や方法論を段階的・体系的に教授します。
4. 社会との連携のもと、課題解決型の授業を展開して、知識・技術の活用能力、コミュニケーション能力、課題探求力、判断力など、社会生活で必須となる能力を総合的に養います。
5. キャリア教育を行い、社会人としてのキャリアを積むために必要な知識と考え方を身につけるとともに、働くことを通して社会に貢献する意欲を育みます。
6. 身につけた知識や技術を統合し集大成するために、卒業研究を全学必修とし、丁寧な個別指導を行います。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

本学は、教育理念を理解するとともに、学ぶ意欲に溢れ、大学での専門教育を受けるうえでの基礎的な能力を身につけている人の入学を希望します。

目 次

大学での学修のスタート

1. 履修の手引 3
2. ガイダンス 3
3. 大学からの連絡方法 3
4. 質問・相談 3

大学の授業

1. 授業の期間（学年・学期） 4
2. 授業科目の履修 4
3. 授業時間 4
4. 出席 4
5. 休講・補講、教室変更 5
6. 公共交通機関が運休した場合の授業の取扱い 5

授業科目の構成

1. 授業科目の区分 6
2. 授業科目の分類 6
3. 授業科目の配当学年 6
4. 授業科目のナンバリング 7

単 位

1. 単位数 8
2. 単位の認定 8

履修計画・登録

1. 年間履修登録単位数の上限 9
2. 履修登録の決まりごと 9
3. 再履修 9
4. 再履修に対する受講免除 9

試 験

1. 定期試験 10
2. 追試験 11
3. 再試験 11
4. レポート 11

成 績

1. 成績評価 12
2. GPA制度 12
3. 成績表・卒業可否通知 12

進級と卒業

1. 進級判定 13
2. 卒業判定 13

履修に関する各種制度と諸注意

1. 特別履修・聴講 14
2. 休学者が復学した場合の履修 14

薬学部のカリキュラム

1. 薬学部の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的 15
2. 薬学部の学位 15
3. 薬学部の3つのポリシー 15
4. 全学共通教育科目 16
5. 卒業要件と授業科目 17
6. 薬学部薬学科科目一覧およびカリキュラムツリー 17

大学院

1. 大学院概要 24
2. 理工学研究科の3つのポリシー 27
3. 人文学研究科の3つのポリシー 30
4. 学位論文合格判定基準 35
5. 履修要綱 39
6. 大学院教職課程 46

学則等諸規則

1. 学則 47
2. 大学院学則 51
3. 学位規程 54
4. 研究生規程 55
5. 研究生細則 56
6. 科目等履修生申込手続要領 57
7. 聴講生申込手続要領 57
8. 転部・転科に関する細則 58
9. 再入学に係わる内規 58

学校法人医療創生大学 個人情報保護への取組み

キャンパス案内図

大学での学修のスタート

大学での学修は、一人ひとりがそれぞれの勉学の目標を定め、入学時から卒業までの長い期間にわたって、余裕のある計画を立てることから始まります。

計画を立てた上で、自分で受講する授業科目を考え、決定し、受講することになります。このことを「履修」といいます。

1. 履修の手引について

本書「履修の手引」は、薬学部の履修方法について解説したものです。熟読し、自分で履修の計画を立てられるようにして下さい。

大学では単位制を採用しています。本書では、進級時や卒業時に必要な単位数・科目についても解説しています。熟読し、進級や卒業の決まりについてよく理解しておいて下さい。

2. ガイダンスについて

大学では、新しい学年のはじめに「ガイダンス」を行い、科目の履修方法・登録方法・変更点などを説明します。

学生にとって、ガイダンスは必要な情報を得ることのできる重要な機会ですので、必ず出席して下さい。また、年次に応じた詳しい説明などのお知らせがありますので、毎年、出席して下さい。

ガイダンスを欠席して必要な情報が得られないと、結果的に自分が不利益を被ることになりますので、注意して下さい。

3. 大学からの連絡方法について

大学では連絡事項など必要な情報は、原則として『掲示』によって行います。少なくとも1日1回は必ず掲示板を確認する習慣をつけて下さい。掲示板は薬学部棟地下1階に学年ごとにあり、本館の1階にもあります。両方とも確認して下さい。

掲示した内容はすべて学生に伝達されたものとして取り扱います。特に休講・補講・試験・学生呼び出しなどの連絡事項については十分に注意して下さい。

掲示を見落としたことにより不利益を被っても、学生各自の責任となります。

4. 質問・相談について

(1) 履修関係

履修に関する質問・相談は本館1階事務局で受け付けます。

○授業日 平日 9:00～18:00 (土曜日 9:00～15:00)

○授業日以外 平日 9:00～17:00 (土曜日 9:00～15:00)

進級や卒業要件等についての不明な点は学年主任やチューターに相談して下さい。また本館1階事務局でも相談に応じます。

(2) 教員に質問・相談をしたい場合

前もって、教員の出講日、オフィスアワーを確認し直接研究室を訪ねて下さい。

非常勤講師の場合は本館1階事務局へ申し出て下さい。

○研究室や出講日がわからない場合は本館1階事務局で確認して下さい。

(3) 学習相談センターの利用

薬学部に学習相談センターを設けており、上級生等の学生相談員が質問・相談に応じます。なお、詳細は掲示板にて確認して下さい。

大学の授業

1. 授業の期間（学年・学期）について

本学の「学年」は4月1日から翌年3月31日までの間とし、1年間の学修期間を2つの学期に区分しています。

前期 4月1日から9月21日まで

後期 9月22日から翌年3月31日まで

※薬学部4～6年生は、「9月1日」から後期授業を開始します。

※後期授業の開始は年度により変更する場合がありますので、スクールカレンダーを確認して下さい。

2. 授業科目の履修について

授業科目の履修方法は、すべて学則に定められています。学生のみなさんは学則に基づいて履修計画を立て、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

本書「履修の手引」は、学則を基に授業科目の履修方法を解説したものですので、熟読し、計画的に履修して下さい。

大学では毎年、決められた期間に「履修登録」をしなければなりません。履修登録とは、学則によって定められたカリキュラムに基づき、自分で履修すべき授業科目を選択し、登録・申請することです。卒業のための要件は厳格に定められていますので、1年生から計画的に履修する必要があります。

履修登録の方法については、本手引P.9「履修計画・登録」を参照して下さい。

3. 授業時間について

授業時間は原則として下表のとおりです。

本学における1回の授業時間は90分を基準としています。ただし、期末試験等は時限・時間が異なることがありますので、十分に注意して下さい。

時 限	授 業 時 間
1	9：00～10：30
2	10：40～12：10
3	13：20～14：50
4	15：00～16：30
5	16：40～18：10
6	18：20～19：50

4. 出席について

カードリーダーが設置してある教室では、授業開始前に学生証を必ずかざして下さい。学生証を忘れた場合は、教員に申し出て下さい。

また、カードリーダーが設置されていない教室では、教員が出席の確認をします。

大学ホームページから各授業の出席状況を確認することができます。

授業情報→その他の案内→出席状況確認

<https://syusseki.isu.ac.jp/>（※ ユーザー ID、パスワードによるログイン）



※読み取り時間帯による出欠の扱いについて

読み取り時間帯	出欠状況	
授業開始10分前から開始まで	出席	出席扱い
授業開始時から開始後30分まで	遅刻	
授業開始後30分以降	例外	欠席扱い
読み取りが無い場合	欠席	

5. 休講・補講、教室変更について

- (1) 授業担当教員から本館1階事務局に休講・補講、教室変更の連絡が入り次第、本館1階に設置してある電子掲示板により連絡します。
- (2) 休講情報は、大学で発行する個人ごとのメールアドレスにも配信します（履修登録をした科目のみ）。携帯電話等への転送もできます。詳細は「学生生活ガイド」を参照して下さい。
- (3) 授業開始時刻後であれば、職員が直接教室へ行き、口頭で連絡します。教室の黒板を使つての休講連絡は行いません。
- (4) 授業開始時刻を30分経過しても休講等の連絡がない場合は、受講している学生の代表者（誰でも構いません）が本館1階事務局へ行って指示を受け、その指示を受講者全員に確実に伝えて下さい。
- (5) 休講となった授業は、補講期間または教員の指定する期日に補講を行います。
- (6) 学生からの休講・補講、教室変更に関する電話、電子メールなどでの問い合わせには一切応じません。
※当日の連絡になる場合もありますので、各自で確認して下さい。

6. 公共交通機関が運休した場合の授業の取扱いについて

公共交通機関	基準時刻	運休による授業の取扱い
○電車：東日本旅客鉄道 ○バス：新常磐交通	午前7時現在（NHKニュース）	大学ホームページにて、休講情報などの確認をして下さい。

※電話もしくは電子メールなどでの問い合わせには一切応じられません。

授業科目の構成

1. 授業科目の区分について

授業科目は、その内容により、以下のように区分されています。

- 全学共通教育科目（外国語教育科目、初年次教育科目、リテラシー教育科目、健康・スポーツ教育科目、一般教養科目）
- 専門教育科目

また、学修期間により、以下のように区分されています。

- 通年科目：1年間（30週）にわたって履修する科目
 - 前期科目：前期（15週）にわたって履修する科目
 - 後期科目：後期（15週）にわたって履修する科目
- ※なお、夏期休業中などの期間に集中して授業を行う場合があります（＝集中講義）。

2. 授業科目の分類について

必修科目	卒業資格を得るためには必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	卒業に必要な所定の単位数を満たす上で、指定された範囲から選択し、一定の単位数以上、必ず修得しなければならない科目
選択科目	卒業に必要な所定の単位数を満たす上で選択できる科目
自由科目	卒業に必要な単位の中に含まれない科目

3. 授業科目の配当学年について

授業科目は、その開講される学年（配当学年）が定められ、順序づけられています。したがって、自分の学年に配当された授業科目および自分の学年より下の学年に配当された授業科目を履修しなければなりません（再履修を含む）。

なお、自分の学年より下の学年に配当された科目の履修については、自分の学年の必修科目と時間割上重複する場合があります。当該年度の履修科目は必ず単位修得するよう心がけましょう。

4. 授業科目のナンバリングについて

ナンバリングとは、授業科目に番号を付して分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。本学では、6桁の記号を用いています。

カリキュラムツリー（P.21）の中にある科目名の下欄に記載されています。

1. 最初の3桁の記号（アルファベット）は領域（系）を表します（下表参照）。
2. 4桁目の記号（数字）は各授業科目の分野を表します。
3. 5桁目の記号（数字）は学年・学期を表します（例：1年前期は1，1年後期は2）。

注1）5年と6年は、学期を区別せず、5年は9，6年は0としています。

注2）通年科目は、前期の番号と同じにしています。

4. 最後の記号（数字）は各分野・学期ごとの通し番号です。

（例）薬の基源

<u>C H E</u>	<u>4</u>	<u>1</u>	<u>2</u>
↓	↓	↓	↓
領域(系)	分野	学年・学期	通し番号

○領域（系）記号

FLP	全学共通教育科目（外国語）
GEN	全学共通教育科目（外国語を除く）
IGN	イグナイト教育
PHY	物理系
CHE	化学系
BIO	生物系
PHA	薬理・病態・薬物治療系
HYG	衛生系
MED	薬剤系
CLI	臨床系
REG	法規・制度・倫理系
PRA	実務実習
PDR	ファーマドリル
BAS	数学・英語・実習入門
GRA	卒業研究

単 位

本学では単位制を採用しています。単位制とは、授業科目にそれぞれ定められた単位があり、その授業科目を履修して試験に合格すれば単位が与えられる制度をいいます。

薬学部では、6年以上本学に在学して、所定の単位を修得すれば卒業と認定し、学士の学位が授与されます。
※ただし、休学期間は在学年数に算入しません。

1. 単位数について

授業科目の単位数は、すべて学則で定められています。単位数とは、授業科目の学修に必要な時間量のこと、履修した授業科目の学力が一定レベルに達したときに与えられるものです。

各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする構成内容をもって1単位とすることを標準とします。

ただし、単位数の算出方法は授業の種類や形態によって異なり、授業の方法に応じた教育効果や授業時間外に必要な学修等を考慮して決められます。授業の他に、予習・復習といった教室外での学修時間も含めて成り立っています。

本学の場合、原則として次の基準により単位数を計算しています。なお、本学では1時限の授業を2時間とみなしています。

講 義 ・ 演 習	15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

2. 単位の認定について

授業科目を履修し、下記の条件を満たせば、所定の単位が認定されます。

- 履修登録が確実に行われていること。
- 当該科目の授業に3分の2を超えて出席していること。
- 当該科目の評価が合格点（P.12参照）に達していること。

履修計画・登録

それぞれの年度でどのような授業科目を履修するかという計画を「履修計画」といいます。
また、年度の初めごとに、履修の手引、シラバス、時間割表に従って、その学年に履修しようとする科目を選択し、決められた期間に「履修登録」をしなければなりません。

1. 年間履修登録単位数の上限について

授業科目の履修にあたっては、系統的かつ総合的な学修を考慮し、予習・復習時間を十分に確保し、計画的な履修が行えるように当該年度に登録できる単位数の上限を設けています。

年間履修登録単位数の上限：45単位

2. 履修登録の決まりごとについて

- 履修登録は「前期のみ開講」、「後期のみ開講」、「集中講義による開講」などに係らず、年間すべての科目を履修登録しなければなりません。登録漏れのないようにして下さい。
- 履修登録をしていない科目は、受講して試験を受けても単位が認められません。
- 時間割表の2ヶ所以上で開講されている科目については、どこか1ヶ所で履修して下さい。
- 一度単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- 同一時限に2科目以上を履修登録することはできません。
- 後期授業開始後の所定の期間内に限り、登録内容の変更（科目の追加・変更）を認めます。
- 前期に修得できなかった科目も年間履修登録単位数の上限（45単位）に含まれます。前期に修得できなかった科目を取り消すことはできません。
- 一度修得した単位および成績は取り消すことができませんので、慎重に計画を立てて下さい。
- 履修登録の有効期限は当該年度限りであり、履修登録は毎年度行わなければなりません。

3. 再履修について

再履修とは、前年度またはそれ以前に履修登録をして単位を修得できなかった科目を、翌年度以降に改めて履修することです。

再履修に際して注意する事項は、次のとおりです。

- 必修科目の単位を修得できなかった場合は、必ず再履修して修得する必要があります。
- その他の科目について、再履修するかどうかは、各自の意思に任せられています。
- 再履修科目の履修登録・試験などは、新規に履修する科目の場合と同様です。

4. 再履修に対する受講免除について

当該学年の必修科目と下位学年の不合格必修科目が時間割で重複した場合、下位学年の不合格必修科目の受講を免除する制度です。ただし、下位学年の不合格選択科目及び不合格選択必修科目は対象外です。

履修登録期間に、所定の用紙により担当教員の許可を得た上で本館1階事務局へ申請してください。

なお、単位認定については、担当教員の指示する学習計画（補講、自学自習等）に基づき試験等により評価しますので、必ず担当教員に学習計画を確認し、指示に従ってください。

試 験

本学では定期試験及び臨時試験（追試験、再試験）を次のように分類します。

1. 定期試験について

定期試験とは、「前期末、学年末に定期的に行う試験」をいいます。原則として、講義終了後に実施します。定期試験を実施する科目・時間については、掲示にてお知らせしますので、必ず確認して下さい。

定期試験の実施時間は下表のとおりです。なお、試験時間を間違えた場合は、追試験を受けることができませんので、注意して下さい。

試験時限	60分の場合	90分の場合
1	9：00～10：00	9：00～10：30
2	10：40～11：40	10：40～12：10
3	13：20～14：20	13：20～14：50
4	15：00～16：00	15：00～16：30
5	16：40～17：40	16：40～18：10
6	18：20～19：20	18：20～19：50

※チャイムは通常授業通りです。

〈試験時の注意事項〉

試験の際には、以下に示す事項を厳守して下さい。

- ① 受験できる科目は、年度初めに「履修登録」をし、許可を受けたものに限られる。
- ② 授業の3分の1以上欠席した者は、その授業科目の受験資格を失う。
- ③ 授業料等未納者は、全ての科目の受験資格を失う。
- ④ 受験に際しては、次のことに留意すること。
 - 試験場は授業が行われる講義室とは異なる場合があるので注意すること。
 - 受験の際は、学生証を提示すること。学生証の提示場所は、座席の通路側の机上とする。
 - 定期試験当日に学生証を忘れた者は、本館1階事務局で仮学生証（有料、当日限り有効）を発行してもらうこと。
 - 答案には、学部、学科、学籍番号、氏名を明瞭に記入すること。
記入していない答案は無効となる。
 - 特に許された参考資料等の他は、試験場に持ち込むことができない。
 - 不正行為をした者には、次の処分が行われる。
 - i. その時点で受験を停止する。
 - ii. それ以降の期間内の受験はできない。
 - iii. 不正行為科目および受験できない科目の成績はつけられない。
 - iv. その氏名を学内に掲示する。
 - その他、試験場ではすべて試験監督者の指示に従うこと。

2. 追試験について

追試験とは、「病気その他やむを得ない事情により、定期試験を受けられなかった学生を対象に行う試験」をいいます。ただし、追試験の評価は下表のとおりです。

(1) 追試験の申込み

当該本人が、指定された期間内に追試験申請書及び必要書類を本館1階事務局へ提出し、申込みを行います。審査の上、許可証を発行します。

(2) 認められる事由、必要書類、評価基準

事 由	必 要 書 類	評価基準
1. 感染症*	医師の診断書	100点満点
2. 実習等（教育実習、介護体験、福祉実習、インターンシップ等）	担当部署の発行する書類	
3. 就職試験	就職試験案内等（受験票）	
4. 忌引（第一親等～第三親等）	死亡診断書の写等	
5. 交通機関の遅延	遅延証明書	
6. 交通事故	事故証明書	
7. 裁判員裁判	公的証明書	
8. その他の公的な事由	公的証明書	
9. その他の私的な事由	学生の所属する学部の学部長押印のある理由書	90点満点

※感染症は、学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症とする。

(3) 追試験料

前掲出表の「9. その他の私的な事由」のみ追試験料を徴収します。

追試験料は1科目につき1,000円です（変更のある場合は掲示によりお知らせします）。

また、追試験料は証紙により納めます。

3. 再試験について

再試験とは、「定期試験等を受験し、必修科目が不合格となっている科目について、定期試験終了後に行う試験」をいいます。但し、再試験の評価は60点満点です。

なお、前期の再試験は前期開講科目を、後期の再試験は後期開講科目を対象とします。

1. 大学が定める期限までに必要な学費を全額納入している。
2. 定期試験等を受験し、必修科目が不合格となっている。（科目数の制限なし）
3. 当該科目の授業の出席が、3分の2を超えている。

なお、次の者は対象外になります。

健康・スポーツ教育科目、実験・実習科目、ゼミナールおよび学科の指定した科目の不合格者。
(原則として)

(1) 再試験の申込み

定期試験終了後、再試験の該当者を掲示します。提示された期間内に本館1階事務局に申し込みます。

(2) 再試験料

再試験料は1科目につき1,000円です。再試験料は証紙により納めて下さい。

4. レポートについて

授業科目の性質上、担当教員が試験よりも学修効果があると判断した場合、試験に代えてレポートを課します。

成績

1. 成績評価について

成績は、S・A・B・C・Fの評価で表し、S・A・B・Cを合格、Fを不合格とします。合格判定科目については、PまたはHで表し、Pを合格、Hを不合格とします。他大学等において修得した単位を認定する場合は、Tで表します。なお、不合格の科目は成績証明書には記載されません。

点数	評価	合否
100点～90点	S	合格
89点～80点	A	
79点～70点	B	
69点～60点	C	
59点以下	F	不合格

2. GPA制度について

(1) GPAとは

Grade Point Averageの略で、履修科目の成績の平均を数値で表わしたものです。この数字を見ることで、自分の成績をより客観的に把握することができます。

(2) GPAの計算方法

成績評価のS、A、B、C、Fにそれぞれ4、3、2、1、0の数値（GP）を与えます。次にそれぞれのGPに科目の単位数を乗じ、その合計を履修科目の総単位数で除して算出します。GPAは小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までの数値とします。

【計算例】

- ① 「心理学概論」（2単位）A 3（GP）
- ② 「コンピュータリテラシー」（1単位）S 4（GP）

$$(3 \times 2 + 4 \times 1) \div (2 + 1) = \underline{3.3}$$

G	単	G	単	単	単	G
P	位	P	位	位	位	P
①	①	②	②	①	②	A

(3) 本学におけるGPAのルール

本学では、次のようなルールでGPAを計算します。

- 卒業に関わるすべての履修科目（全学共通教育科目と専門教育科目）を対象とする。
- 合格判定科目（P、H）及び認定科目（単位互換による他大学の単位等）は含めない。
- 不合格科目も計算の対象とする。（履修登録済で受講しなかった科目“放棄科目”があると、GPAは下がります。）

(4) GPAの利用

- 奨学金貸与基準
- 成績優秀者表彰基準
- 修学支援及び履修指導

GPAの詳細については、本館1階事務局に問合せ下さい。

3. 成績表・卒業合否通知について

成績表は学期末に保証人宛に郵送し、次学期始めのガイダンスにて学生本人に配付します。

卒業合格通知は、3月上旬頃に保証人宛に郵送し、学生本人には2月下旬に学内掲示にてお知らせします。

進級と卒業

本学部には、すべての学年への進級および卒業の合否を判定する制度があります。休学等によって在学年数を満たしていない場合または進級判定、卒業判定で不合格となった場合は留年となります。

なお、留年となった場合でも、その後の進級や卒業の判定基準および卒業に必要な要件は、入学年度の「履修の手引」のとおりですので注意して下さい。

以下に学年別に要点をまとめてありますので、よく読んで履修して下さい。

1. 進級判定について

薬学部ではすべての学年への進級のための進級判定があり、次の基準によります。

(1) 4年生までの各学年への進級判定

1. 当該学年で修得すべき必修科目のうち、不合格となった科目が3科目以内であること。
2. 実験・実習科目に、不合格となった科目がないこと。
3. 各学年の終了までに、各学年に必要な学費を全額納入していること。

※進級判定不合格者は留年となり、上位学年に担当された科目の履修はできません。

(2) 4年生から5年生への進級判定

1. 4年生までの必修科目122単位（専門教育科目・全学共通教育科目）をすべて修得していること。ただし、必修科目の不合格科目が1科目のみの者は、総合学力は身につけていると見なし、5年生への仮進級とする。
2. 4年生の終了までに、必要な学費を全額納入していること。

※5年生への進級判定不合格者は留年となり、5年生以上に担当された科目の履修はできません。

(3) 5年生から6年生への進級判定

1. 病院実習・薬局実習に合格していること。ただし、特別な理由により病院実習または薬局実習をできなかった場合を除く。
2. 5年生の終了までに、必要な学費を全額納入していること。

※6年生への進級合格者は、就職活動等で必要な**卒業見込証明書**の交付が受けられます。

2. 卒業判定について

卒業の判定基準は、次のとおりです。

1. 6年以上12年以内在学していること。（ただし、休学期間は在学年数に算入しません）
2. 卒業に必要な科目をすべて修得していること。
3. 卒業に必要な単位数以上を修得していること。（単位数の内訳は、「P.17 卒業要件と授業科目」を参照して下さい）
4. 卒業までに必要な学費を全額納入していること。

※ 卒業判定基準を満たした者は卒業と認定され、学士の学位が授与されます。

履修に関する各種制度と諸注意

1. 特別履修・聴講

他学部、他学科の専門教育科目を学びたい場合は、「特別履修」および「聴講」という制度があります。

(1) 特別履修について

特別履修では、受講した科目について単位を修得することができます。

〔認可基準〕

特別履修を許可するのは、下の①～⑤を満たし、かつ学長が許可した場合とします。

- ① 自分の学年または自分より下の学年に担当された科目であること。
- ② 教育設備に余裕があること。
- ③ 受講する能力があると認められること。
- ④ 当該科目担当教員が履修を認めていること。
- ⑤ 将来その科目を修得する必要があると認められること。

〔受講手続〕

特別履修を希望する学生は、履修登録・確認期間中に本館1階事務局にある指定用紙に記入の上、申込みを行い、許可された者は履修登録を行います。

(2) 聴講について

聴講は単位の修得を目的とせず、講義を聴講することをいいます。したがって、履修登録は不要で、試験もありません。

聴講を希望する学生は、履修登録・確認期間中に本館1階事務局にある指定用紙に記入し、科目担当教員の許可印をもらった上で、申込みを行います。

2. 休学者が復学した場合の履修

卒業に必要な要件は、入学した年度の「履修の手引」によります。

なお、復学する学年は、本館1階事務局にて問い合わせして下さい。

薬学部のカリキュラム

1. 薬学部の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的

薬学部は、本学の教育理念・目的を踏まえて、豊かな人間性を有し、地域の人々の健康を率先して守ることのできる、研究マインドと確かな知識に裏打ちされた、自律・自立した薬剤師を育成することを教育研究上の目的とする。一人ひとりの学生を大切にす手塩にかけ教育を行い、従来の薬剤師としての職能に加えて、チーム医療の中で貢献できる、問題発見能力と問題解決能力を備えた薬剤師を育成し、地域社会に有為な人材を送り出すことを目指す。

2. 薬学部の学位

薬学部では、6年以上在学し、必要な単位数を修得した者に学士の学位を授与します。

ただし、通算在学年数（休学期間は算入しない）は12年を超過できません。

薬学部の卒業生に与えられる学士の学位は、下表のとおりです。

学 科 名	学士の学位
薬 学 科	学士（薬学）

3. 薬学部の3つのポリシー

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

薬学部薬学科は、本学の教育理念・目的と教育方針に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 薬剤師の社会的義務を認識し、保健医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドを身につけて、知識を統合・活用することができる。
3. 患者指向の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。
4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を身につけている。
5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学部薬学科は、本学の教育理念・目的と教育方針に基づいて、以下のような教育課程を編成・実施します。

1. 「イグナイト教育」を初年次から順次開講し、主体的に学ぶ姿勢ならびに医療の担い手にふさわしいヒューマニズム・倫理観を育みます。
(ディプロマポリシー1およびディプロマポリシー5に対応)
2. 患者本位のチーム医療に必要なコミュニケーション力を育むために、少人数討論形式の教育を初年次から継続して実施します。(ディプロマポリシー3に対応)
3. 専門性の高い教員による「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に沿った医療薬科学の講義、実習ならびに演習を体系立てて実施し、地域医療を実現できる実践的能力を醸成します。
(ディプロマポリシー4に対応)
4. 修得した専門知識、技能、態度を基に、病院・薬局実務実習ならびに卒業研究を行い、地域医療を担うリーダーに必要な「研究マインド」および「知識を統合して活用する力」を涵養します。
(ディプロマポリシー2およびディプロマポリシー4に対応)

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

薬学部薬学科は、本学の教育理念・目的と教育方針に基づいて、以下のような人の入学を希望します。

1. 薬剤師になって地域医療の発展に貢献したい人
2. 思いやりと協調性を持って他人と接することができる人
3. 自分の考えや疑問をはっきりと他人に伝えることができる人
4. 薬学を学ぶ上で、必要な基礎学力を身につけている人

4. 全学共通教育科目について

全学共通教育科目は、学部学科の別によらず、大学生にふさわしい基礎力、教養、技能を幅広く身につけることを目的とする科目です。

全学共通教育科目は、その内容により、必修科目の外国語教育科目、初年次教育科目、リテラシー教育科目、健康・スポーツ教育科目および選択科目の五つに分かれています。

薬学部では、16単位が必修、8単位が選択科目で合計24単位以上を履修します。

【全学共通教育科目の種類】

外国語教育科目

薬学部では、1年生で英語4単位、2年生で英語2単位が必修となっています。さらに、外国語を履修したい学生のために、選択外国語教育科目として、中国語、韓国語が開設されています。初修の外国語は1、2の順に履修して下さい。

外国人留学生は、1年生の必修英語に替えて、日本語8単位を修得して下さい。その際、1年生の必修英語は選択科目となります。

初年次教育科目

初年次教育科目としてイグナイト教育1A（フレッシュャーズセミナー）（3単位）、イグナイト教育1B（薬と仕事1）（1単位）が必修科目となっています。

リテラシー教育科目

「コンピュータリテラシー」（1単位）、「日本語リテラシー」（1単位）が必修科目となっています。

健康・スポーツ教育科目

1年生では、「健康の科学」（2単位）と「健康・スポーツ1,2」（各1単位）が必修科目となっています。

選択科目

選択科目として外国語教育科目と一般教養科目があり、一般教養科目には人文科学分野、社会科学分野、自然科学分野の科目が開設されています。

5. 卒業要件と授業科目

P.18～P.21に、専門教育科目および全学共通教育科目の一覧、およびカリキュラムツリー（科目一覧の科目を分野ごとに分けて示し、カリキュラムにおける科目の位置や相互関係が一目瞭然となるようにした体系図）を掲載しています。卒業に必要な履修単位の80%は必修に当てられています。以下の注意事項をよく読んで、自分がどの科目を履修するのか計画を立て、より幅広い知識を身につけて下さい。

注意事項

1. 各科目は、学年順に履修して下さい。自分の学年より上位に割り当てられている科目は履修できません。
2. 必修科目の単位は、必ず修得する必要があります。
3. 卒業に必要な専門教育科目および全学共通教育科目の単位を満たすために、選択科目の単位を修得する必要があります。

【卒業に必要な単位】

卒業要件は186単位で、全学共通教育科目が24単位、専門教育科目が162単位です。

		必 修	選 択
全学共通教育科目	一般教養科目	—	8
	外国語教育科目	6	
	初年次教育科目	4	—
	リテラシー教育科目	2	—
	健康・スポーツ教育科目	4	—
専門教育科目	専門教育	143 ^{*1}	19 ^{*2}
合 計		159	27
卒業要件単位数		186	

※1) 卒業研究Aまたは卒業研究Bのどちらかを必ず選択すること。

※2) 薬学要説7科目およびファーマドリル5から8単位以上選択すること。

6. 薬学部薬学科科目一覧およびカリキュラムツリー

○科目一覧は、P.18～P.19へ。

○カリキュラムツリーは、P.21へ。

部門 必要 単位	専 門 教 育 科 目						必 修 科 目	
	必 修 科 目 143 単位				選 択 科 目 19 単位以上		外 国 語 教 育 科 目 6 単位	
	科 目 名		単 位 数		科 目 名		単 位 数	
1	無機化学	1	自然科学実習入門	2	数学入門	1	英語 A1	1
	薬の基原	1	物理学演習 1	1	数学基礎演習 1	1	英語 A2	1
	数学	2	物理学演習 2	1	数学基礎演習 2	1	英語 B1	1
	物理学	2	化学演習 1	1			英語 B2	1
	化学 1	2	化学演習 2	1				
	化学 2	1	生物学演習 1	1				
	化学 3	1	生物学演習 2	1				
	生物学 1	1	薬学数学	1				
	生物学 2	1						
	2	物理化学 1	1	微生物学	1	化学結合論	1	英語 C1
物理化学 2		1	免疫学	1	地域・災害医療学	1	英語 C2	1
薬品分析学 1		1	薬理学 1	1				
薬品分析学 2		1	病態・臨床検査学	1				
有機化学 1		1	化学療法学 1	1				
有機化学 2		1	薬局方概論	1				
有機化学 3		1	イグナイト教育 2A	2				
生薬学		1	物理系実習	2				
漢方医薬学		1	化学系実習	3				
機能形態学 1		1	生物系実習	2				
機能形態学 2		1	ファーマドрил 1	1				
機能形態学 3		1	イグナイト教育 2B	1				
生化学 1		1						
生化学 2	1							
3	物理化学 3	1	化学療法学 2	1	植物薬品化学	1		
	有機化学 4	1	生物薬剤学	1	放射薬品学	1		
	医薬品化学 1	1	物理薬剤学	1				
	生物有機化学	1	臨床免疫学	1				
	細胞分子生物学	1	イグナイト教育 3	2				
	病態分子生物学	1	医療心理学	1				
	衛生化学	1	薬学英語入門	1				
	環境衛生学	1	治療系実習	2				
	公衆衛生学	1	衛生系実習	2				
	薬理学 2	1	ファーマドрил 2	1				
	薬理学 3	1						
4	病態・薬物治療学 1	2						
	病態・薬物治療学 2	2						
	医薬品化学 2	1	薬事関係法規	1	臨床生理学	1		
	薬品安全性学	1	薬事関係制度	1	臨床血液学	1		
	臨床栄養学	1	アドバンスイグナイト (処方解析)	2	生物構造薬学	1		
	薬理学 4	1	臨床統計学	1	香粧品学	1		
	医薬品開発概論	1	薬学英語	1	漢方治療学	1		
	病態・薬物治療学 3	2	調剤系実習	2	アンチエイジングと終末期医療	1		
	臨床薬物動態学	1	プレ実務実習	4	向精神薬論	1		
	製剤学	1	ファーマドрил 3	1	地域・在宅医療	1		
臨床薬学 1	1	ファーマドрил 4	1	看護学	1			
臨床薬学 2	1	卒業研究 A (4) (★1)	-	食品と健康	1			
医薬品情報学	1	卒業研究 B (4) (★1)	-	救急・中毒学	1			
5	病院実習	10	卒業研究 A (5) (★1)	-	臨床心理学	1		
	薬局実習	10	卒業研究 B (5) (★1)	-	臨床心理学	1		
6	薬学総合演習	7	卒業研究 A (6前) (★1)	10	クリニカルケーススタディ	2		
			卒業研究 B (6前) (★1)	10	ファーマドрил 5	2		
					物理系薬学要説	1		
					化学系薬学要説	1		
					生物系薬学要説	1		
					健康と環境要説	1		
				薬と疾病要説	1			
				医薬品創製要説	1			
				薬学と社会要説	1			
				薬物治療特論	1			
				M R 実践論	1			
開設 単位数			143		32		6	

- ☆ : 専門教育科目の必修科目
- ☆ : 全学共通教育科目の必修科目
- ☆ : 全学年で履修できる全学共通教育科目の選択科目
- ☆ ★1 : 卒業研究 A または卒業研究 B は選択必修科目。

全 学 共 通 教 育 科 目 (24 単位以上)									
必 修 科 目 (16 単位)						選 択 科 目 (8 単位以上)			
初 年 次 教 育 科 目 4 単位		リテラシー教育科目 2 単位		健康・スポーツ教育科目 4 単位		外 国 語 教 育 科 目			
科 目 名		科 目 名		科 目 名		科 目 名		科 目 名	
単 位 数		単 位 数		単 位 数		単 位 数		単 位 数	
イグナイト教育 1A	3	コンピュータリテラシー	1	健康の科学	2	中国語 1 (2 年次)	1	中国語 2 (2 年次)	1
イグナイト教育 1B	1	日本語リテラシー	1	健康・スポーツ 1	1	韓国語 1 (2 年次)	1	韓国語 2 (2 年次)	1
				健康・スポーツ 2	1	一般教養科目 (人文科学分野)			
						科 目 名			
						哲学の世界	2	ことばの科学	2
						心理学概論	2	世界の歴史と文化	2
						倫理学の世界	2	芸術の世界	2
						文学の世界	2	日本の歴史と文化	2
						一般教養科目 (社会科学分野)			
						科 目 名			
						法学入門	2	経済学入門	2
						社会学入門	2	災害からの復興	2
						暮らしのなかの憲法	2	経営学入門	2
						政治学入門	2	ジェンダー論	2
						一般教養科目 (自然科学分野)			
						科 目 名			
						自然科学のあゆみ	2	生命の科学	2
						統計のしくみ	2	健康と薬	2
						食品の科学	2	地球環境の科学	2
	4		2		4				48

進級判定基準があります。
詳細は 13 ページを参照して下さい。

医療創生大学 薬学部 カリキュラムツリー

地域の健康を守る自立した薬剤師

- ★ = 必修科目 (卒業研究A・Bはどちらか一方を選択)
- 無印 = 選択科目
- = 「要説」7科目および「ファーマードリル5」から8単位以上の選択が必要

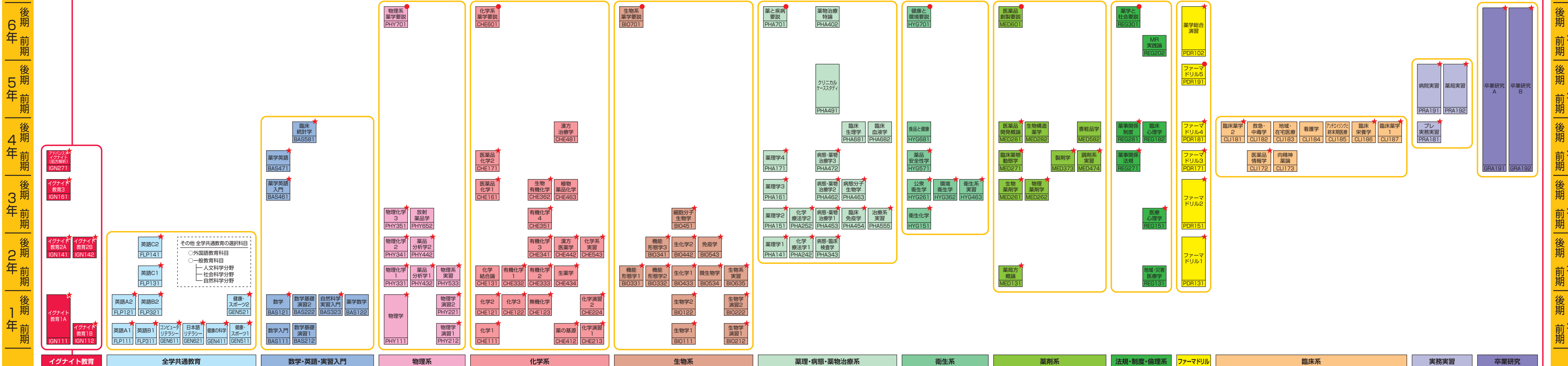
ディプロマポリシー1 薬剤師の社会的義務を認識し、保健医療の担い手としてふさわしいヒューマンズムと倫理観を身につけている。

ディプロマポリシー2 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドを身につけて、知識を統合・活用することができる。

ディプロマポリシー3 患者指向の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。

ディプロマポリシー4 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を身につけている。

ディプロマポリシー5 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

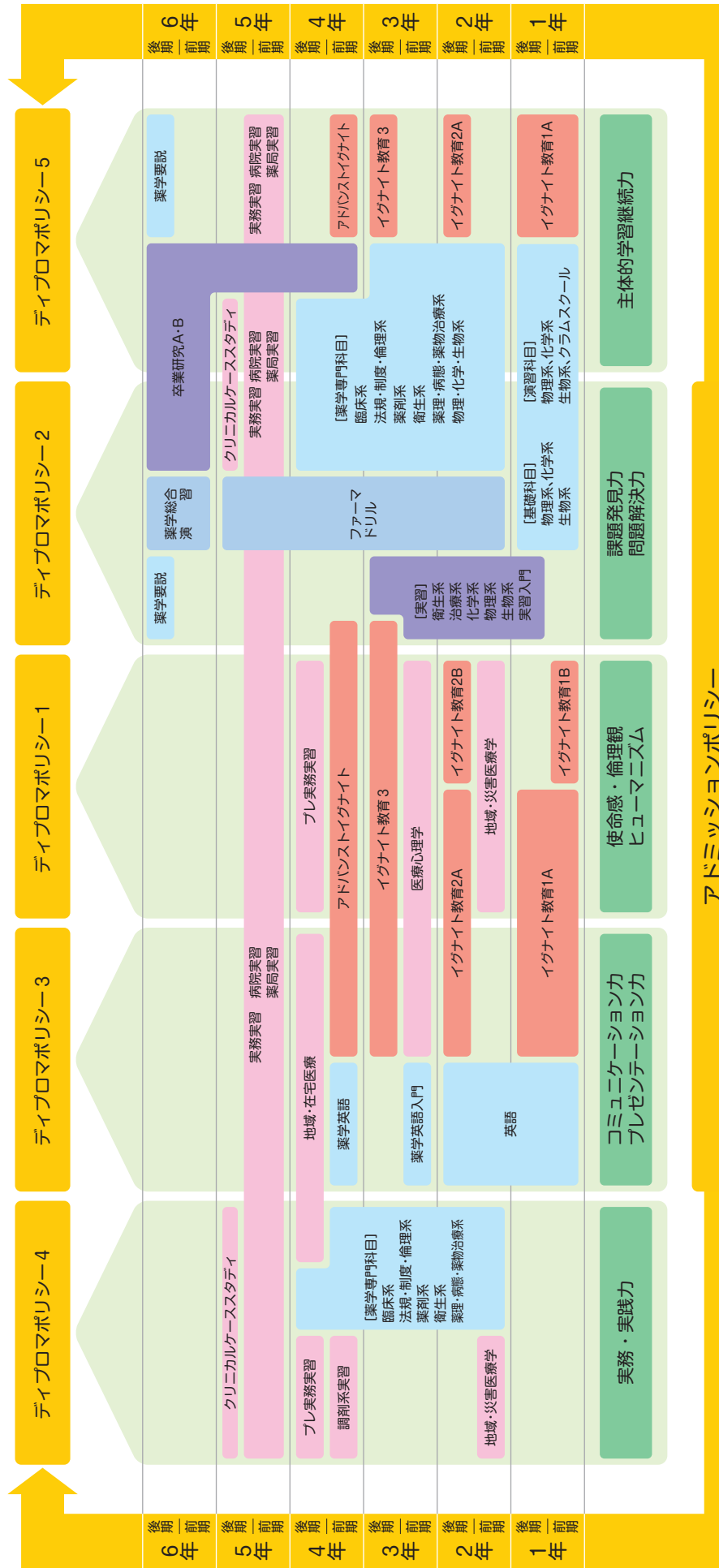


アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)

- ◎薬剤師になって地域医療の発展に貢献したい人
- ◎思いやりと協調性を持って他人と接することができる人
- ◎自分の考えや疑問をはっきりと他人に伝えることができる人
- ◎薬学を学ぶ上で、必要な基礎学力を身につけている人

医療創生大学 薬学部 カリキュラムマップ

- ディプロマポリシー 1: 薬剤師の社会的義務を認識し、保健医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
 (学位授与の方針)
 2: 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドを身につけて、知識を統合・活用することができる。
 3: 患者指向の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。
 4: 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を身につけている。
 5: 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。



アドミSSIONポリシー

- アドミSSIONポリシー 1: 薬剤師になって地域医療の発展に貢献したい人
 (入学受け入れの方針)
 2: 思いやりと協調性を持って他人と接することができる人
 3: 自分の考えや疑問をはっきりと他人に伝えることができる人
 4: 薬学を学ぶ上で、必要な基礎学力を身につけている人

大 学 院

1. 大学院概要

(1) 医療創生大学大学院の目的

医療創生大学大学院は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、学部に於ける一般的並びに専門的教育の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究してその深奥を究め、さらに独創的研究により知的、道徳的及び応用的能力の展開により全人間形成につとめ、国家、社会に貢献し得る有能な人材の育成、及び科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生を教育の理念・目的とする。

(2) 理工学研究科の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的

修士課程（物質理学専攻および物理工学専攻）および博士課程（物質理工学専攻）を有する大学院理工学研究科は、本学の教育理念・目的を根本に据え、学士課程の専門分野で培った力を発展させ、より深い知識と技術、さらに優れた研究開発能力を身につけ、理学と薬学さらに工学を統合した科学技術による先端分野の開拓に挑戦できる、時代と地域社会の要請に対応しうる研究者・技術者を養成することを目的とする。

わが国はこれまでに先端的な基礎科学と応用技術を生み出し社会に貢献してきた。今後一層の技術革新が望まれるなか、本学の学士教育では基礎力の充実に重点をおいてきたが、研究開発の現場ではより深い学識と創造力・研究開発力をそなえた研究者・技術者が必要とされてきている。大学院修了者の活躍こそが、今後の技術革新に不可欠な要素である。さらに最近の先端研究は、異分野間の未踏の境界領域に設定されることが多く、理学と薬学さらに工学それぞれが、これまで以上に融合し進展した科学技術を必要としている。本理工学研究科ではこれに応えるべく、修士課程に理学・薬学系の「物質理学専攻」と工学系の「物理工学専攻」の2専攻を設けている。

本理工学研究科には、修士課程の物質理学専攻と物理工学専攻の2専攻の上に博士課程の「物質理工学専攻」を置いている。修士課程における理学・薬学系の物質理学専攻と工学的系の物理工学専攻の目的と志向を博士課程においてはさらに強く求め、理学・薬学と工学が融合した研究を期している。理学的研究は、本来真理の探究という動機に基づくものであるが、本学の博士課程では、これによって得たものを自然科学の発展と人類の進歩に還元しようとするもうひとつの目的を重要視して理学・薬学さらに工学が融合した専攻としている。

物質理学専攻(修士課程)

物質理学専攻は、生命科学と薬学を基盤として、環境生物学から動物行動、さらに創薬を目指した分子計測と設計、薬理、化学療法まで、幅広い分野についての基礎を身につけながら、物質の分子レベルでの構造と機能に関する深い知識と研究能力を備えた研究者・技術者を養成することを目的とする。

物質理学専攻の研究領域は、分析化学から生命科学、動植物学、さらに薬理、療法まで多岐にわたるが、生命科学と薬学の視点から、地球上に生きる生物や植物の生態から生命活動に関わる因子の機能と作用、さらにそれらの分子レベルでの制御メカニズムを探求する。

物理工学専攻(修士課程)

今日、ハード、ソフトウェア両面での、電子工業、機械工業の進歩は著しく、その影響は産業構造の質的な変革にまで及びつつある。この変革のための自主技術の開発は、わが国をめぐる厳しい国際環境の中でますます求められている。物理工学専攻は、電子情報科学、電子工学、および機械工学の学士課程での基礎教育のもとに、より高度な理論と応用の手法を修得させ、基礎と応用の織りなす多面的な研究に接することを通して、高度情報化社会に不可欠なエレクトロニクス、情報、生産、エネルギー技術の発展に貢献しうる、確かな基礎力と幅広い応用力を持つ研究者・技術者を養成することを目的とする。

物理工学専攻の研究領域は、電子・機械分野での新素材開発や評価、コンピュータサイエンスを機軸とした先進的な画像処理などがあり、先端技術に係わる研究課題に積極的に取り組む。

物質理工学専攻(博士課程)

博士課程物質理工学専攻では、物質の基礎と応用に立脚した教育・研究を行う。理学・薬学と工学の融合を重要視し、工学的素養を持った理学色の強い研究者、理学および薬学的素養を持った工学色の強い研究者の養成を目的とし、確かな技術力と豊かな創造性を兼ね備え、学術探求と社会の発展に貢献できる研究者および高度専門的技術者を育成することを目的とする。

博士課程では、設定された研究課題について指導教員および研究関連教員のセミナーや研究会、さらに学会活動へ積極的に参画しながら研究課題の推進に専念する。

(3) 人文学研究科の人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的

修士課程(日本文学専攻、英米文学専攻、社会学専攻および臨床心理学専攻)および博士課程(日本文学専攻)を有する大学院人文学研究科は、本学の教育理念・目的を根本に据え、学士課程での専門教育を基盤としつつ、より高度な学術の理論および応用の方法を修得させ、地域社会はもとより、世界の平和と文化の進展に貢献できる研究者、および高度な専門的職業人を養成することを目的とする。より具体的には、人文科学に共通する人間の思想や感情につき、その背景となる社会現象や、文化全般にわたる理解を深めさせ、現代日本の進展に寄与することを使命とする。

日本文学専攻(修士課程)

学士課程における学修と研究の基盤の上に、より専門的であるとともに、基礎的な面の教育にも配慮しつつ、日本文学を研究することを目的とする。科目を「特殊講義」「特殊研究」「演習」の三種に大別し、この科目名のもとに、古代文学、中世文学、近代文学、和歌文学、日本語学、漢文学の講義と演習を配置する。特殊講義と特殊研究は隔年開講を原則とする。教授者は専任の教授者の他に、学外からも専門性に優れた教授を招き、講義内容の充実に努める。

学生にとって重要なことは、より専門性を高め、あわせて基礎力を高めることである。このために授業科目は論文指導教授の指導のもとに選択する。また演習については、論文指導教授の担当する演習を選択する。

日本文学専攻(博士課程)

修士課程における学修と研究の基盤の上に、より専門性を高めることを目的とする。科目を「特講」「特殊演習」の二種に大別し、この科目名のもとに、修士課程よりも高度な古代文学、中世文学、近代文学、和歌文学、日本語学、漢文学の講義と演習を配置する。教授者は専任の教授者の他に、学外からも専門性に優れた教授を招き、講義内容の充実に努める。

博士課程の学生には、博士論文の作成のために、研究テーマを明確に定め、研究方法を確立することが求められる。

英米文学専攻(修士課程)

英米文学専攻では、英米の文学・文化・言語をより深く研究し、高い専門性が求められる職業を担うとともに、広く社会に知的貢献のできる人材の育成を教育目的とする。この目的を達成するために、各自の専攻領域における専門的知識を深め、課題を発見し主体的に解決する実践的能力を養う。さらに、高い英語運用能力と、客観的分析や考察に基づく論理的な表現力を身につけることを目指す。

1年次から専門教員の個人的指導のもとで各自の研究を開始することになるが、それと同時に、専門領域以外のさまざまな分野にも積極的に取り組むことが強く求められる。これは、本専攻の修了者が、専門の知識だけでなく、幅広い教養を備えた、一般社会にとっても有用な人材に成長することを切望するからである。また本専攻で学ぶ者には、修了後、英語教員になることを目指す者が少なくない。本専攻は、そのような進路希望にも対応するカリキュラム上の配慮を行っている。

社会学専攻(修士課程)

社会学専攻は、当該分野の専門的職業人や研究者として長きにわたって活動しうる専門的な知識およびスキルを修得する大学院として、学部で学んだ社会学および社会福祉学を学生がさらに深め、高度に研究することを目指している。同時に、社会福祉分野の社会人向け大学院としても、十分な機能を果たすことを目指している。

学生が研究できる分野は、各教員の専門分野とその周辺分野として、「社会学史」「公共哲学」「教育社会学」「地域社会学」「家族社会学」「社会福祉学」などであり、優れた当該成果により修了者は、専門的研究者だけでなく、また職業人としても、有為な人材に育つことが期待される。

臨床心理学専攻(修士課程)

臨床心理学専攻は、学部における心理学的教養の上に臨床心理学に関する学識を身につけ、高度な専門的研究ならびに実践の能力を養うことを目的としている。具体的には臨床心理士の養成を目指して、(公財)日本臨床心理士資格認定協会の基準を参照し、カリキュラムを編成した。実習を通して心理臨床の実務など実践的な能力を身につけることを中軸に、心理学研究の方法論を学ぶほか、基礎心理学の各領域にわたる科目をバランスよく整備し、基本的な心理学的素養の育成をはかるよう内容の充実に努めている。

このような教育体制によって、人間理解の広い視野と確実な学識に裏付けられた実践能力の高い心理臨床の専門家を養成することを目的としている。

2. 理工学研究科の3つのポリシー

理工学研究科は、本学の教育理念・目的と教育方針を根本に据え、学士課程において専門分野で培った力を発揮して、より一層の深い学識さらには優れた研究開発能力を身につけ、理学と薬学さらに工学を統合した科学技術による先端的分野の開拓に挑戦でき、時代と地域社会の要請に対応しうる科学者・技術者を養成することを目的としています。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

理工学研究科は、その教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

1. 物質に対する理学的な理解力と探求力および新物質や新機能の開発力を身につけている。
2. 物理工学における基礎的思考能力と広い応用力を身につけている。
3. 生体物質の構造と機能に関する高度の知識と研究力、無機化学、有機化学、生化学、物性科学についての深い理解と新物質・新機能の開発力を身につけている。
4. 電子情報科学・電子工学・機械工学の専門領域における高度な理論と科学技術を創造的に展開できる能力を身につけている。
5. 日本語による論理的な表現力、プレゼンテーション能力、および専門分野における外国語によるコミュニケーション能力を修得している。
6. 理工学分野の課題に対する問題解決能力および問題解決に向けた指導力を身につけている。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

理工学研究科では、その教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

時代と地域社会の要請に対応できる専門的な研究者・技術者を養成するために、「専門基礎科目（必修）」「専門選択科目」「特別研究および研究講読」からなる教育課程を体系的に編成します。

1. 専門基礎科目として、物質理学と物理工学の両専攻共通6科目「有機化学特論」「生化学特論」「化学計測特論」「電子物理学特論」「理数工学特論」「力学特論」から2科目を選択必修として大学院における専門基礎教育を行います。
2. 物質理学の専門分野では、「物理化学」「生命科学」「物質構造」「薬学」をキーワードにした専門選択科目を設置します。
3. 物理工学の専門分野では、「情報科学」「電子工学」「機械工学」「材料工学」をキーワードにした専門分野を設置します。
4. 各専攻において、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」「研究講読Ⅰ・Ⅱ」を通して実践的な能力を養い、問題解決能力やコミュニケーション力を身につけさせます。
5. 個々の研究テーマに沿った研究分野の調査、研究計画の作成と実施、さらには研究報告・論文作成を指導することで、より深い学識と優れた研究開発能力を身につけさせます。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

理工学研究科は、その教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

1. 本学の教育理念・目的である「科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生」を十分に理解できる人
2. 理学・工学・薬学の最先端分野の研究開発に強い関心を持つ人
3. 明確な進学意識を持ち、研究開発に積極的に取り組む意欲のある人
4. 理工学分野、あるいは生命科学分野の高度な専門知識と問題解決力を身につけ、継続してキャリアの向上を目指す社会人

物質理学専攻(修士課程)

ディプロマポリシー (学位授与の方針)

理工学研究科物質理学専攻は大学院の教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 生命科学・薬学に関する諸問題を認識し、これらの問題に研究者・技術者として柔軟に取り組むことができる。
- (2) 特別研究、研究講読を通して、研究者・技術者として問題解決能力やコミュニケーション能力を修得している。
- (3) 生体物質の構造と機能に関する高度な知識と研究力、生命科学および薬学に関する深い理解と技術、研究能力を修得している。

カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)

理工学研究科物質理学専攻は大学院の教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- (1) 「有機化学特論」「生化学特論」「化学計測学特論」を専門基礎科目として設置し、修士課程の研究において必要となる専門基礎知識を身につけさせます。
- (2) 「物質理学研究講読Ⅰ，Ⅱ」を設置し、研究課題に関する最新情報を入手すると共に、専門分野における国際コミュニケーション能力を養います。
- (3) 「物質理学特別研究Ⅰ，Ⅱ」を設置し、専門分野における確かな知識と問題解決能力、さらに研究者・技術者として必要な素養を身につけさせます。
- (4) 研究者・技術者として幅広い視野と創造力を養うために、専攻を横断した科目履修も可能としています。

アドミッションポリシー (入学者受け入れの方針)

理工学研究科物質理学専攻は大学院の教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 「生命科学」「薬学」の分野のいずれかに強い興味と関心を持っている人
- (2) 将来、国際的にも通用する研究者あるいは技術者になりたいという意志と目標を持っている人
- (3) 大学学部教育における科学（物理、化学、生物）や薬学の学修内容について、基礎的な知識や能力を身につけている人
- (4) 国際的に活躍できる能力およびコミュニケーション能力を伸ばしていくため、外国語についても基礎力を持っている人

物理工学専攻(修士課程)

ディプロマポリシー (学位授与の方針)

理工学研究科物理工学専攻は大学院の教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 情報科学、電子工学、機械工学に関する諸問題を認識し、これらの問題に研究者・技術者として柔軟に取り組むことができる。
- (2) 特別研究、研究講読を通して、研究者・技術者として問題解決能力やコミュニケーション能力を修得している。
- (3) 情報科学・電子工学・機械工学の専門領域における高度な理論と科学技術を創造的に展開できる能力を修得している。

カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)

理工学研究科物理工学専攻は大学院の教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課

程を編成・実施します。

- (1) 「電子物理学特論」「力学特論」「数理工学特論」を専門基礎科目として設置し、修士課程の研究において必要となる電子物性・力学・数理の基礎知識を身につけさせます。
- (2) 「物理工学研究講読 I, II」を設置し、研究課題に関する最新情報を入手すると共に、専門分野における国際コミュニケーション能力を養います。
- (3) 「物理工学特別研究 I, II」を設置し、専門分野における確かな知識と問題解決能力、さらに研究者・技術者として必要な素養を身につけさせます。
- (4) 研究者・技術者として幅広い視野と創造力を養うために、専攻を横断した科目履修も可能としています。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

理工学研究科物理工学専攻は大学院の教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 「電子情報科学」「電子工学」「機械工学」の分野のいずれかに強い興味と関心を持っている人
- (2) 将来、国際的にも通用する研究者あるいは技術者になりたいという意志と目標を持っている人
- (3) 大学学部教育における数学、情報、工学の学修内容について、基礎的な知識や能力を身につけている人
- (4) 国際的に活躍できる能力およびコミュニケーション能力を伸ばしていくため、外国語についても基礎力を持っている人

物質理工学専攻(博士課程)

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

理工学研究科物質理工学専攻は大学院の教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 物質理工学に関する高度な知識と社会に貢献しうる確かな技術・研究能力を修得している。
- (2) 研究者、技術者として高い問題解決能力と国際的に活躍出来るコミュニケーション能力を修得している。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

理工学研究科物質理工学専攻は大学院の教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- (1) 「物質理工学特別講読 I, II」を設置し、研究課題に関する最新情報を入手すると共に、専門分野における国際コミュニケーション能力、論文作成能力を養います。
- (2) 「物質理工学特別研究 I, II」を設置し、専門分野における確かな知識と問題解決能力、さらに研究者・技術者として必要な素養を身につけさせます。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

理工学研究科物質理工学専攻は大学院の教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 「理学」「薬学」「工学」の分野のいずれかに強い興味と関心を持っている人
- (2) 将来、国際的にも通用する研究者あるいは高度な技術者になりたいという意志と目標を持っている人
- (3) 大学院修士課程における専門分野の知識、技術力を身につけている人
- (4) 国際的に活躍できる能力およびコミュニケーション能力を伸ばしていくための外国語力を持っている人

3. 人文学研究科の3つのポリシー

人文学研究科は、本学の教育理念・目的と教育方針を根本に据え、学士課程での専門教育を基盤としつつ、より高度な学術の理論および応用の方法を修得させ、地域社会はもとより、世界の平和と文化の進展に貢献できる研究者、および高度な専門的職業人を養成することを目的としています。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

人文学研究科は、その教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

1. 人間におけるさまざまな物事や問題を、各専門分野の方法論を用いて探求し研究することができる。
2. 各専門分野の知識を深めるとともに、幅広い教養を持ち、さまざまな思考の枠組みを用いて、実践的に研究することができる。
3. 実社会のあらゆる場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じた高度の自己表現をすることができる。
4. 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動することができる。
5. 各自の研究成果を、修士学位論文または博士学位論文の形にまとめ上げることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人文学研究科では、その教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

1. 各専門分野の講義・演習・実習科目を設置し、それぞれの分野での知識と研究能力の向上を図ります。
2. 修士課程では、各分野の専門科目を配置するとともに修士学位論文の作成を指導します。
3. 演習・実習科目の履修を通して、各専門分野での討論・研究発表能力の向上を図ります。
4. 博士課程では、各自の研究テーマに基づく博士学位論文の作成という目標を設定し、その達成に向けて自主的・意欲的に研究に取り組めるような指導教員による指導体制を構築します。
5. 各専門分野での研究・教育を通して、高度な専門知識を持った職業人および研究者を養成し、地域社会の発展に貢献します。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

人文学研究科は、その教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

1. 修士課程は、日本文学、英米文学、社会学、臨床心理学の各分野での学部教育を基礎として、高度な専門知識や技術を身につけ、社会に貢献したい人
2. 博士課程は、日本文学に関するより高度な専門知識や技術を身につけ、社会に貢献したい人
3. 日本文学、英米文学、社会学の各分野の専任教員免許状を取得し、教職に就くことを希望する人
4. 財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定する「臨床心理士」受験資格の取得を希望する人
5. 博士（日本文学）の学位を取得し、専門的な教育・研究を行うことを希望する人

日本文学専攻(修士課程)

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

日本文学専攻修士課程は、その教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 日本文学研究におけるさまざまな物事や問題を、専門的な知識と研究方法を用いて探究し研究することができる。
- (2) 日本文学研究における知識を深め、リテラシーと教養を身につけ、さまざまな思考の枠組みを用いて、実践的に研究することができる。
- (3) 実社会のあらゆる場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、自分とは異なる立場や意見を

- 持った人々の考えを理解し、状況に応じた高度の自己表現をすることができる。
- (4) 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動することができる。
 - (5) 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本文学専攻修士課程は、その教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- (1) 日本文学研究分野の講義・演習科目を設置し、専門分野における知識と研究能力の向上を図る。
- (2) 本課程では、各自の研究テーマに基づいた修士学位論文の作成を指導する。
- (3) 演習科目の履修を通して、日本文学研究分野の討論・研究発表能力の向上を図る。
- (4) 日本文学研究分野での研究・教育を通じて、高度な専門知識を持った職業人および研究者を養成し、地域社会の発展に貢献する。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

日本文学専攻修士課程は、その教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 日本文学研究分野での学部教育を基礎として、高度な専門知識や技術を身につけ、社会に貢献したい人
- (2) 日本文学研究分野の専修免許状を取得し、教職に就くことを希望する人
- (3) 生涯学習の観点から、日本文学の研究をさらに深める意欲のある人

日本文学専攻(博士課程)

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

日本文学専攻博士課程は、その教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 日本文学研究におけるさまざまな物事や問題を、高度な知識と研究方法を用いて探究し研究することができる。
- (2) 日本文学研究における知識を深め、また修士課程で培った研究成果を発展させ、さまざまな思考の枠組みを用いて、実践的に研究することができる。
- (3) 実社会のあらゆる場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、自分とは異なる立場や意見を持った人々の考えを理解し、状況に応じた高度の自己表現をすることができる。
- (4) 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動することができる。
- (5) 各自の研究成果を、的確に他者に向かって発信することができる。
- (6) 博士学位論文合格判定基準に則り博士学位論文をまとめ上げることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本文学専攻博士課程は、その教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- (1) 専門分野の講義・演習科目を設置し、日本文学研究分野における知識と研究能力の向上を図る。
- (2) 本課程では、各自の研究テーマに基づく博士学位論文の作成という目標を設定し、その達成に向けて自主的・意欲的に研究に取りくめるような指導教員による指導体制を構築する。
- (3) 演習科目の履修を通して、日本文学研究分野の討論・研究発表能力の向上を図る。
- (4) 日本文学研究分野での研究・教育を通じて、高度な専門知識を持った職業人および研究者を養成し、地域社会の発展に貢献する。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

日本文学専攻博士課程は、その教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 日本文学研究分野に関する研究実績を有し、さらに高度な専門知識や技術を身につけ、社会に貢献したい人
- (2) 博士の学位を取得し、専門的な教育・研究を行うことを希望する人
- (3) 生涯学習の観点から、日本文学のこれまでの研究をさらに深める意欲のある人

英米文学専攻(修士課程)

ディプロマポリシー (学位授与の方針)

英米文学専攻は、その教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 英米の文学・文化・言語の専門領域について高度な知識を有し、主体的に研究することができる。
- (2) 問題設定・解決能力を持ち、状況に応じた客観的な分析や判断を行うことができる。
- (3) 英語の運用能力を持ち、自身の考えを的確に伝えるコミュニケーション力を発揮することができる。
- (4) 英米の文学・文化・言語のさまざまな問題について高い関心と洞察力を示すことができる。
- (5) 研究活動や論文作成を通して培った論理的な表現力と思考力を、社会で応用することができる。
- (6) 修得した幅広い知識と研究方法を活かして、教育現場はもとより広く社会に貢献することができる。
- (7) 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。

カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)

英米文学専攻では、その教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- (1) 「英米文学」「英米文化」「英語学」「応用言語学(英語教育)」の領域に、それぞれ「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を配置し、研究テーマに応じた指導を行う。
- (2) 上記「演習」科目では、専門領域の論文を読み解き、自ら問題を設定し、解決する能力を養う。
- (3) 各領域に応じた専門的知識を修得するために、選択科目「特殊講義」「特殊研究」を配置する。
- (4) 「英語教育学」に関する科目を配置し、第二言語習得研究に基づく英語教育を理論と実践の両面から学ぶ。
- (5) 「演習」「講義」「研究」科目によるバランスの取れた学修を通して、専門領域に関する深い理解と論理的な研究方法を修得する。
- (6) 専門領域以外の科目も履修することにより、幅広い知識と柔軟な思考力や応用力を身につける。

アドミッションポリシー (入学者受け入れの方針)

英米文学専攻は、その教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 英語による基礎的な文章読解能力など、一定の英語運用能力を持つ人
- (2) 英米の文学・文化・言語への強い興味や高い関心を持つ人
- (3) 英米の文学や文化に関する哲学的・倫理的な背景に興味を持つ人
- (4) 英語を言語学的・社会的視点から体系的に研究したい人
- (5) 第二言語習得理論を理解し、高度な専門性を有する英語教員を目指す人
- (6) 英米の文学・文化・言語の研究を通じて、社会に貢献する意欲を持つ人

社会学専攻(修士課程)

ディプロマポリシー (学位授与の方針)

社会学専攻は、その教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 社会学の専門領域について高度な知識を有している。
- (2) 問題設定、解決能力を持ち社会科学的視点で分析、判断する能力を持つことができる。

- (3) 社会的事実を科学的、論理的、実証的に研究、分析する能力を持つことができる。
- (4) 研究を通して培った論理的な思考力と表現力を実社会で活用し社会貢献ができる。
- (5) 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

社会学専攻では、その教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- (1) 「社会学史」「公共哲学」「教育社会学」「地域社会学」「家族社会学」「社会福祉学」の領域に、特殊講義、特殊演習を配置し、研究テーマに応じた指導を行う。
- (2) 「社会学特殊演習」は各学生の指導教授による論文指導のための授業である。したがって「社会学特殊演習Ⅰ」（通年2単位）は1年次に、「社会学特殊演習Ⅱ」（通年2単位）は2年次に必修として取得しなければならない。
- (3) 上記演習は専門領域の論文を読み解き、自ら問題を設定し、解決する能力を養う。
- (4) 特殊講義、特殊演習、特殊研究を配置しバランスのとれた学修を通して、専門領域に関する深い理解と論理的な研究手法を身につける。
- (5) 専門領域以外の科目も幅広く履修することにより、幅広い知識と応用力を身につける。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

社会学専攻は、その教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 社会学・社会福祉学の研究達成状況に関する知識を持ち、論理的に理解できる人
- (2) 歴史・社会的文脈を踏まえ、複雑化する現代社会に対して社会的に思考、判断し一定の解決策を見出すことのできる人
- (3) 人権と社会正義に対する原理を理解し、その原理から課題に取り組もうとする意欲や関心を有する人
- (4) 自分の研究関心や問題意識、研究成果を、他者に明確な形で伝えることのできる人
- (5) 社会学・社会福祉学の成果研究動向を踏まえながら、社会的な状況について、他者と意見交換ができ、自分の研究成果を他者に伝えるため、論文作成および口頭発表ができる人

臨床心理学専攻(修士課程)

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

臨床心理学専攻は、その教育目標に基づいて、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に修了を認定し、学位を授与します。

- (1) 人間におけるさまざまな物事や問題を、臨床心理学の方法論を用いて探求し研究できる。
- (2) 臨床心理学の知識を深めるとともに、心理学全般にわたる幅広い教養を持ち、臨床的な枠組みを用いて、実践的に研究することができる。
- (3) 心理臨床の場面に対応しうるコミュニケーション能力を持ち、状況に応じたふさわしい自己表現ができる。
- (4) 自ら問いを立て、それに答えていく研究能力を持ち、積極的に活動できる。
- (5) 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

臨床心理学専攻では、その教育目標を達成するために、以下のような方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

- (1) 心理学分野の講義・演習・実習科目を設置し、それぞれの分野での知識と研究能力の向上を図る。
- (2) 心理学の専門科目を配置するとともに修士学位論文の作成を指導する。
- (3) 参加型の学習を通して、臨床心理分野における今日的な課題や事象についての討論・研究発表能力の

向上を図る。

- (4) 実習科目の履修を通して、臨床心理学に関わる高度な専門的職業人を養成し、地域社会の発展に貢献する。

アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）

臨床心理学専攻は、その教育目標を達成するために、以下のような人の入学を希望します。

- (1) 臨床心理学の学部教育を基礎として、高度な専門知識や技術を身につけ、社会に貢献したい人
- (2) 人の行動や心に関する明確な問題意識を持ち、対人支援に積極的に取り組み、かつ学び続ける意欲のある人
- (3) 「公認心理師」ならびに/または（公財）日本臨床心理士認定協会の認定する「臨床心理士」の受験資格の取得を希望する人

4. 学位論文合格判定基準

物質理学専攻(修士課程)

修士学位論文合格判定基準

1. 医療創生大学大学院理工学研究科のディプロマポリシーに従い、修士学位論文（以下修士論文）として基本的な知識・技術・問題解決能力等が認められる論文であること。
2. 修士論文は、物質理学専攻に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
3. 修士論文は以下の条件を満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。
 - (2) 研究の背景がわかりやすく記述されており、研究の目的や意義が明確である。
 - (3) 研究方法（実験方法）が十分吟味されている。
 - (4) 研究結果が図表などを用いて分かりやすく整理されている。
 - (5) 研究結果に基づいて論理的な考察がなされ、研究目的に対応した結論が適切に導き出されている。
 - (6) 当該研究に関係する国内外の文献が適切に引用されている。
4. 提出された修士論文は審査委員（主査、副査）による審査を経ていること。
5. 論文内容に沿って発表要旨が提出されており、口頭発表は論理的で分かりやすい構成になっていること。
6. 原則として、得られた研究成果が当該分野の学会などにおいて発表もしくは論文発表（特許出願を含む）されていること（確約されている場合を含む）。
7. 上記項目1から6までをすべて満たしていること。

物理工学専攻(修士課程)

修士学位論文合格判定基準

1. 医療創生大学大学院理工学研究科のディプロマポリシーに従い、修士学位論文（以下修士論文）として基本的な知識・技術・問題解決能力等が認められる論文であること。
2. 修士論文は、物理工学専攻に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
3. 修士論文は以下の条件を満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。
 - (2) 研究の背景がわかりやすく記述されており、研究の目的や意義が明確である。
 - (3) 研究方法（実験方法）が十分吟味されている。
 - (4) 研究結果が図表などを用いて分かりやすく整理されている。
 - (5) 研究結果に基づいて論理的な考察がなされ、研究目的に対応した結論が適切に導き出されている。
 - (6) 当該研究に関係する国内外の文献が適切に引用されている。
4. 提出された修士論文は審査委員（主査、副査）による審査を経ていること。
5. 論文内容に沿って発表要旨が提出されており、口頭発表は論理的で分かりやすい構成になっていること。
6. 原則として、得られた研究成果が当該分野の学会などにおいて発表もしくは論文発表（特許出願を含む）されていること（確約されている場合を含む）。
7. 上記項目1から6までをすべて満たしていること

物質理工学専攻(博士課程)

博士学位論文合格判定基準

1. 医療創生大学大学院理工学研究科のディプロマポリシーに従い、博士学位論文（以下博士論文）として基本的な知識・技術・問題解決能力等が認められる論文であること。
2. 博士論文は、物質理工学に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
3. 博士論文は以下の条件を満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。

- (2) 研究の背景がわかりやすく記述されており、研究の目的や意義が明確である。
- (3) 研究方法（実験方法）が十分吟味されている。
- (4) 研究結果が図表などを用いてわかりやすく整理されており、それに基づいて論理的な考察がなされている。
- (5) 研究目的に適合した結論が導き出されている。
- (6) 当該研究に関係する国内外の文献が適切に引用されている。
- 4. 博士論文は審査委員（主査、副査）による審査を経ていること。
- 5. 公聴会において、博士論文が当該研究分野における学術的もしくは応用的側面において有意義な成果を含んでいることが認められたこと。
- 6. 得られた研究成果に関する論文発表が以下の条件を満たしていること。
 - (1) 課程博士
 - 博士論文に関わる研究内容が査読付きの学術雑誌に2編以上掲載済みであるか掲載が確約されていること。また、そのうち1編は学位申請者が筆頭著者になっていること。
 - (2) 論文博士
 - ① 博士論文に関わる研究内容が査読付きの学術雑誌に3編以上掲載済みであるか掲載が確約されていること。また、そのうち2編は学位申請者が筆頭著者になっていること。
 - ② 申請者が筆頭著者になっている論文のうち、少なくとも1編は英文で書かれていること。
- 7. 上記項目1から6までをすべて満たしていること。

日本文学専攻(修士課程)

修士学位論文合格判定基準

- 1. 医療創生大学大学院人文学研究科のディプロマポリシーに従い、修士学位論文（以下、修士論文）として基本的な知識・問題解決能力等が認められる論文であること。
- 2. 修士論文は、日本文学専攻に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
- 3. 修士論文は以下の条件を満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。
 - (2) 研究の背景がわかりやすく記述されており、研究の目的や意義が明確である。
 - (3) 研究方法が十分吟味されている。
 - (4) 表現および表記が適切になされている。
 - (5) 研究結果に基づいて論理的考察がなされ、研究目的に対応した結論が適切に導き出されている。
 - (6) 当該研究に関係する国内外の文献が適切に引用されている。
- 4. 提出された修士論文は審査委員（主査、副査）による審査を経ていること。
- 5. 論文内容に沿って発表要旨が提出されており、口頭発表は論理的でわかりやすい構成になっていること。
- 6. 原則として、得られた研究成果が当該分野の学会などにおいて発表もしくは論文発表されていること（確約されている場合を含む）。
- 7. 上記項目1から6までをすべて満たしていること。

日本文学専攻(博士課程)

博士学位論文合格判定基準

- 1. 医療創生大学大学院人文学研究科のディプロマポリシーに従い、博士学位論文（以下、博士論文）として専門的な知識・問題解決能力等が認められる論文であること。
- 2. 博士論文は、日本文学専攻に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
- 3. 博士論文は以下の条件を満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。
 - (2) 研究の背景がわかりやすく記述されており、研究の目的や意義が明確である。

- (3) 研究方法が十分吟味されている。
- (4) 表現および表記が適切になされている。
- (5) 研究目的に適合した結論が導き出されている。
- (6) 当該研究に係る国内外の文献が適切に引用されている。
4. 博士論文は審査委員（主査、副査）による審査を経ていること。
5. 公聴会において、博士論文等が当該研究分野における学術的側面から有意義な成果を含んでいることが認められたこと。
6. 得られた研究成果に関する論文発表が以下の条件を満たしていること。
 - (1) 課程博士
博士論文に関わる研究内容が査読付きの学術誌に2編以上掲載済みであるか掲載が確約されていること。
 - (2) 論文博士
博士論文に関わる研究内容が査読付きの学術誌に3編以上掲載済みであるか掲載が確約されていること。または、単著が刊行されていること。
7. 上記項目1から6までをすべて満たしていること。

英米文学専攻(修士課程)

修士学位論文合格判定基準

1. 医療創生大学大学院人文学研究科のディプロマポリシーに従い、修士学位論文（以下、修士論文）として基本的な知識・技術・問題解決能力等が認められる論文であること。
2. 修士論文は、英米文学専攻に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
3. 修士論文は以下の条件を満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。
 - (2) 研究テーマや問題設定が明確であり、学術的意義を有している。
 - (3) 研究方法が十分吟味されている。
 - (4) 論文の構成が妥当であり、論旨が明解である。
 - (5) 精密な分析と考察がなされ、結論が適切に導き出されている。
 - (6) 当該研究に係る国内外の文献が適切に引用されている。
4. 提出された修士論文は審査委員（主査、副査）による審査を経ていること。
5. 論文内容に沿って発表要旨が提出されており、口頭発表は論理的でわかりやすい構成になっていること。
6. 上記項目1から5までをすべて満たしていること。

社会学専攻(修士課程)

修士学位論文合格判定基準

1. 医療創生大学大学院人文学研究科のディプロマポリシーに従い、修士学位論文（以下、修士論文）として基本的な知識・技術・問題解決能力等が認められる論文であること。
2. 修士論文は、社会学専攻に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
3. 修士論文は、以下の条件を満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。
 - (2) 研究の背景がわかりやすく記述されており、研究の目的や意義が明確である。
 - (3) 研究方法（調査・分析・比較研究）が十分に吟味されている。
 - (4) 研究結果が統計データを活用し図表などを用い分析されている。
 - (5) 研究結果から論理的な考察がなされ、研究目的に対応した結論が適切に導き出されている。
 - (6) 当該研究に係る国内外の文献が適切に引用されている。
4. 提出された修士論文は審査委員（主査・副査）による審査を経ていること。

5. 論文内容に沿って発表要旨が提出されており、口頭発表は論理的でわかりやすい構成になっていること。
6. 上記項目の1から5までをすべて満たしていること。

臨床心理学専攻(修士課程)

修士学位論文合格判定基準

1. 医療創生大学大学院人文学研究科のディプロマポリシーに従い、修士学位論文（以下、修士論文）として基本的な知識・技術・問題解決能力等が認められる論文であること。
2. 修士論文は、臨床心理学に関連する分野における新しい知見や進展を含む内容の論文であること。
3. 修士論文は以下の条件すべてを満たすように構成されていること。
 - (1) 論文題目が適切である。
 - (2) 研究の背景がわかりやすく記述されており、研究の目的や意義が明確である。
 - (3) 研究方法（実験方法、調査方法など）が十分吟味されている。
 - (4) 研究結果が図表などを用いてわかりやすく整理されている。
 - (5) 研究結果に基づいて論理的な考察がなされ、研究目的に対応した結論が適切に、導き出されている。
 - (6) 当該研究に関係する文献が適切に引用されている。
4. 提出された修士論文は審査委員（主査、副査）による審査を経ていること。
5. 論文内容に沿って口頭発表が行われ、その発表は論理的でわかりやすい構成になっていること。
6. 原則として、得られた研究成果が当該分野の学会、もしくは書誌等で発表されていること（確約されている場合を含む）。
7. 上記項目1から6までをすべて満たしていること。

5. 履修要綱

(1) 修了要件

課程修了に必要な条件は、次のとおりです。

- ① 修士課程は2年以上、博士課程は3年以上在学していること。(ただし、休学期間は在学年数に算入しません)
なお、研究科委員会において優れた研究業績をあげたものと認められた場合は、1年以上在学すれば足りるものとする。
- ② 修士課程は、課程修了に必要な科目及び単位数(30単位以上)を修得していること。
- ③ 博士課程は、課程修了に必要な科目及び単位数(理工学研究科では16単位以上、人文学研究科では14単位以上。ただし、大学院学則第32条2(3)による入学者は30単位以上)を修得していること。
- ④ 学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格していること。

(2) 学位論文の提出及び最終試験

- ① 学位論文を提出しようとする者は、あらかじめ論文の主題とその研究計画を期限までに指導教授に提出し、承認を得なければなりません。
- ② 学位論文は正副2部作成し、指導教授を通じて期限までに研究科長に提出して下さい。提出期限に遅れた論文は受理されませんので注意して下さい。
- ③ 修士課程・博士課程の最終試験及び論文審査は、課程修了に必要な単位数を修得した者を対象とします。
- ④ 最終試験は、学位論文を中心として、これに関連ある専攻の授業科目及び1か国以上の外国語について、口頭又は筆記試験によって行います。
- ⑤ 学位論文の審査にあたって、審査料を徴収することがあります。
なお、一度納入された審査料は、理由によらず返還されません。

(3) 履修方法

① 理工学研究科修士課程

- i 別表に定められた各専攻の授業科目を、論文指導教授の指導のもとに必修16単位、選択14単位以上を履修します。なお、選択科目として同じ研究科の他の専攻の選択科目も履修できます。
- ii 下記の6科目のうち2科目を必ず選択し、履修して下さい。
有機化学特論、生化学特論、化学計測学特論(物質理学専攻の科目)
電子物理学特論、数理工学特論、力学特論(物理工学専攻の科目)
- iii 論文指導は各専攻の特別研究Ⅰ・Ⅱ及び研究講読Ⅰ・Ⅱで行うので、論文指導教授が担当する科目を履修して下さい。
- iv 各専攻の特別講義は集中講義です。開講日及び内容は、その都度掲示します。
また、履修年次の指定はありません。

② 人文学研究科修士課程

- i 別表に定められた各専攻の授業科目を、論文指導教授の指導のもとに選択し、30単位以上を履修します。
- ii 論文指導教授が担当する授業科目は、すべて履修して下さい。

③ 理工学研究科・人文学研究科博士課程

- i 別表に定められた各専攻の授業科目を、論文指導教授の指導のもとに選択し、理工学研究科物質理工学専攻では16単位以上、人文学研究科日本文学専攻では14単位以上を履修します。ただし、大学院学則第32条2(3)による入学者は30単位以上を履修します。

① 理工学研究科教育課程表

物質理学専攻（修士課程）

履修年次	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
1	物質理学特別研究Ⅰ	6		論文指導は特別研究Ⅰ、Ⅱ及び研究講読Ⅰ、Ⅱで行なう。
	物質理学研究講読Ⅰ	2		
	有機化学特論		2	
	生化学特論		2	
	化学計測学特論		2	
1・2	物理化学特論		2	
	生体機能特論		2	
	生体物質特論		2	
	物質構造特論		2	
	地球環境科学特論		2	
	物質理学特別講義		2	
	生命科学特論Ⅰ		2	
	生命科学特論Ⅱ		2	
	天然物化学特論		2	
	行動生理学特論		2	
構造生物学特論		2		
2	物質理学特別研究Ⅱ	6		
	物質理学研究講読Ⅱ	2		
	計	16	28	

物理工学専攻（修士課程）

履修年次	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
1	物理工学特別研究Ⅰ	6		論文指導は特別研究Ⅰ、Ⅱ及び研究講読Ⅰ、Ⅱで行なう。
	物理工学研究講読Ⅰ	2		
	応用計測学特論		2	
	バイオメカニクス特論		2	
	数理工学特論		2	
1・2	感性工学特論		2	
	機能解析学特論		2	
	材料工学特論		2	
	情報工学特論		2	
	科学研究法特論Ⅰ		2	
	科学研究法特論Ⅱ		2	
	物理的エネルギー特論		2	
	電気生理学的評価法特論		2	
	超音波イメージング特論		2	
	情報ネットワーク特論		2	
物理工学特別講義		2		
2	物理工学特別研究Ⅱ	6		
	物理工学研究講読Ⅱ	2		
	計	16	28	

物質理工学専攻（博士課程）

履修年次	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		必修	選択	
1・2・3	物質理工学特別講読 I	2		講読科目、研究科目とも、「I」を履修したうえで、「II」を履修すること。
2・3	物質理工学特別講読 II	2		
1・2・3	物質理工学特別研究 I	6		
2・3	物質理工学特別研究 II	6		
	計	16		

博士課程の標準修業年限は3年である。

修得すべき単位は16単位で、かつ指導教員による研究指導を必ず受けること。ただし、大学院学則第32条2（3）による入学者は30単位以上を履修すること。

② 理工学研究科教員（専任）構成と専攻分野

物質理学専攻（修士課程）

分 野	研究指導および講義担当教員		
分子設計	教 授	理学博士	梅 村 一 之
生物系薬学	教 授	薬学博士・博士(医学)	蝦 名 敬 一
細胞分子生物学	教 授	薬学博士	片 桐 拓 也
基礎医学	教 授	博士(医学)	菊 池 雄 士
天然物薬品化学、分子生化学	教 授	薬学博士	金 容 必
環境と健康、環境とストレス、神経科学・神経薬理、ストレスと健康	教 授	薬学博士	櫻 井 映 子
分子生物学、寄生虫学	教 授	博士(医学)	奈 良 武 司
分子薬理学・化学療法	教 授	博士(薬学)	林 正 彦
和漢薬物学	教 授	博士(薬学)	松 本 司
基礎医学	教 授	薬学博士・博士(医学)	村 田 和 子
薬の投薬形態や体内動態の研究	教 授	医学博士・薬学博士	村 田 亮
有機化学	教 授	理学博士	山 浦 政 則
医薬品製剤の品質規格及び品質評価に関する研究	教 授	薬学博士	山 崎 勝 弘
薬化学	教 授	薬学博士	山 崎 直 毅
材料工学	准 教 授	博士(工学)	坂 本 直 道
衛生薬学	准 教 授	博士(薬学)	佐 藤 陽
DNA代謝関連機構の構造化学的研究	准 教 授	博士(理学)	角 田 大
医療薬学	准 教 授	博士(薬学)	住 谷 賢 治

物理工学専攻（修士課程）

分 野	研究指導および講義担当教員		
人間医工学、教育学、社会医学	教 授	博士(医学)	北 山 淳
理学療法学	教 授	博士(理学療法学)	Goh Ah-Cheng
情報通信工学	教 授	博士(工学)	中 尾 剛
解剖生理学、神経科学、看護学	教 授	医学博士、看護学修士	楊 箬 隆 哉
分子細胞生物遺伝学	特任教授	農学博士	加 藤 茂 明
物理療法、地域高齢者、スポーツ及び身障スポーツ	准 教 授	博士(学術)	荻 原 久 佳
ロボット工学、機械力学	准 教 授	博士(工学)	高 橋 義 考
健康科学、感性工学、理学療法学	准 教 授	博士(工学)	古 川 勉 寛

物質理工学専攻（博士課程）

分 野	教 員		
	教 授	理学博士	梅 村 一 之
分子設計	教 授	理学博士	梅 村 一 之
生物系薬学	教 授	薬学博士・博士(医学)	蝦 名 敬 一
基礎医学	教 授	博士(医学)	菊 池 雄 士
天然物薬品化学、分子生化学	教 授	薬学博士	金 容 必
リハビリテーション科学	教 授	博士(理学療法)	Goh Ah-Cheng
分子生物学、寄生虫学	教 授	博士(医学)	奈 良 武 司
分子薬理学・化学療法	教 授	博士(薬学)	林 正 彦
和漢薬物学	教 授	博士(薬学)	松 本 司
基礎医学	教 授	薬学博士・博士(医学)	村 田 和 子
薬の投薬形態や体内動態の研究	教 授	医学博士・薬学博士	村 田 亮
心理生理学・感性工学	教 授	医学博士	楊 箬 隆 哉
有機化学	教 授	理学博士	山 浦 政 則
分子細胞生物遺伝学	特任教授	農学博士	加 藤 茂 明
DNA代謝関連機構の構造化学的研究	准 教 授	博士(理学)	角 田 大

③ 人文学研究科教育課程表

日本文学専攻（修士課程）

履修年次	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		必 修	選 択	
1・2	日本文学特殊講義 I		4	論文指導は演習科目にて行う。
	日本文学特殊講義 II		4	
	日本文学特殊講義 III		4	
	日本文学特殊講義 IV		4	
	日本語学特殊講義 I		4	
	日本語学特殊講義 II		4	
	漢文学特殊講義		4	
	日本文学特殊研究 I		4	
	日本文学特殊研究 II		4	
	日本文学特殊研究 III		4	
	日本文学特殊研究 IV		4	
	日本文学特殊研究 V		4	
	日本語学特殊研究 I		4	
	日本語学特殊研究 II		4	
	日本文学演習 I		2	
	日本文学演習 II		2	
	日本文学演習 III		2	
	日本文学演習 IV		2	
	日本文学演習 V		2	
	日本文学演習 VI		2	
	日本文学演習 VII		2	
日本文学演習 VIII		2		
日本語学演習 I		2		
日本語学演習 II		2		
	計		76	

日本文学専攻（博士課程）

履修年次	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
1・2・3	日本文学特講Ⅰ（古典文学）		4	8単位以上 修得すること
	日本文学特講Ⅱ（古典文学）		4	
	日本文学特講Ⅲ（近代文学）		4	
	日本文学特講Ⅳ（近代文学）		4	
	日本語学特講Ⅰ（日本語学）		4	
	日本語学特講Ⅱ（日本語学）		4	
	漢文学特講（漢文学）		4	
1	日本文学特殊演習Ⅰ	2		研究指導教員の科目 を順次履修し、6単 位修得すること
2	日本文学特殊演習Ⅱ	2		
3	日本文学特殊演習Ⅲ	2		
	計	6	28	

博士課程の標準修業年限は3年である。

修得すべき単位は14単位（特講8単位、演習6単位）以上で、かつ指導教員による研究指導を必ず受けること。
ただし、大学院学則第32条2（3）による入学者は30単位以上を履修すること。

英米文学専攻（修士課程）

履修年次	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
1	英米文学演習Ⅰ		2	論文指導は演習科目 にて行う。
	英語学演習Ⅰ		2	
	応用言語学演習Ⅰ		2	
	英米文化演習Ⅰ		2	
1・2	英米文学特殊講義Ⅰ		4	
	英米文学特殊講義Ⅱ		4	
	英米文学特殊講義Ⅲ		4	
	英米文学特殊研究Ⅰ		4	
	英米文学特殊研究Ⅱ		4	
	英米文学特殊研究Ⅲ		4	
	英語学特殊講義		4	
	英語学特殊研究		4	
	応用言語学特殊講義		4	
	応用言語学特殊研究		4	
	古典文学特殊講義		4	
	英米文化特殊講義		4	
	英米文化特殊研究		4	
	英語教育学特殊講義		4	
2	英米文学演習Ⅱ		2	
	英語学演習Ⅱ		2	
	応用言語学演習Ⅱ		2	
	英米文化演習Ⅱ		2	
	計		72	

社会学専攻（修士課程）

履修年次	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
1	社会学特殊演習Ⅰ	2		論文指導は演習科目にて行う。
2	社会学特殊演習Ⅱ	2		
1・2	社会学特殊講義		4	
	社会学特殊研究		4	
	社会学史特殊講義		4	
	社会学史特殊研究		4	
	公共哲学特殊講義		4	
	公共哲学特殊研究		4	
	地域社会学特殊講義		4	
	地域社会学特殊研究		4	
	教育社会学特殊講義		4	
	教育社会学特殊研究		4	
	文化人類学特殊講義		4	
	文化人類学特殊研究		4	
	社会福祉学特殊講義		4	
	社会福祉学特殊研究		4	
	精神保健福祉特殊講義		4	
	精神保健福祉特殊研究		4	
	家族社会学特殊講義		4	
家族社会学特殊研究		4		
	計	4	72	

臨床心理学専攻（修士課程）

履修年次	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
1	臨床心理学特論	4		指導教員による論文指導は、特に授業時間を設けず行う。
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2		
	臨床心理面接特論Ⅱ	2		
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2		
	臨床心理査定演習Ⅱ	2		
	臨床心理基礎実習	4		
	臨床心理学研究法特論		2	
	心理学統計法特論		2	
	発達心理学特論Ⅰ		2	
	発達心理学特論Ⅱ		2	
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）		2	
	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）		2	
	投映法特論		2	
	心理療法特論		2	
	心理学特殊研究		2	
	表現療法特論		2	
	1・2	臨床心理学関連行政論		
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）			2	
人格心理学特論			2	
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）			2	
臨床精神病理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）			2	
リハビリテーション心理学特論			2	
臨床催眠学特論			2	
臨床動作法特論			2	
産業心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）			2	
健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）			2	
2	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	2		
	臨床心理実習Ⅱ	2		
	臨床心理学特殊研究		4	
	計	20	44	

④ 人文学研究科教員（専任）構成と専攻分野

日本文学専攻（修士課程）

分 野	研究指導及び講義担当教員		
日本語学	教 授	博士（文学）	玉 懸 元
中世文学	教 授	博士（文学）	松 本 麻 子
			（着任予定）
			（着任予定）

英米文学専攻（修士課程）

分 野	研究指導及び講義担当教員		
英米哲学	教 授	文学修士（東京都立大学）	久 呉 高 之
英米文学（英米演劇）	教 授	文学修士	小 池 久 恵
コミュニケーション学、英語教授法	特 任 教 授	博士（コミュニケーション学）	Timothy Michael Cook
理論言語学、生成文法、音韻論	准 教 授	博士（学術）	西 村 康 平

社会学専攻（修士課程）

分 野	研究指導及び講義担当教員		
社会福祉学	教 授	社会学修士	鎌 田 真理子
家庭社会学	教 授	修士（社会学）	菊 池 真 弓
			（着任予定）

臨床心理学専攻（修士課程）

分 野	研究指導及び講義担当教員		
発達心理学	教 授	文学修士	林 洋 一
臨床心理学	教 授	社会科学博士（ミシガン州立大学）	窪 田 文 子
臨床心理学	教 授	博士（文学）	山 本 佳 子
認知心理学	教 授	博士（学術）	末 次 晃
認知心理学	教 授	博士（情報科学）	大 原 貴 弘
発達心理学	准 教 授	博士（教育学）	名 取 洋 典
知覚心理学	准 教 授	博士（心理学）	高 島 翠
臨床心理学	准 教 授	修士（人間科学）	大 島 典 子

日本文学専攻（博士課程）

分 野	教 員		
日本語学	教 授	博士（文学）	玉 懸 元
中世文学	教 授	博士（文学）	松 本 麻 子
			（着任予定）

6. 大学院教職課程

(1) 取得免許の種類

理工学研究科	物質理学専攻	中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）
	物理工学専攻	高等学校教諭専修免許状（工業）
人文学研究科	英米文学専攻	中学校教諭専修免許状（英語） 高等学校教諭専修免許状（英語）

(2) 免許状を取得するための所要資格

- ① 各種教諭一種免許状を取得していること。
- ② 各専攻の別表の教科に関する科目の内、24単位以上を取得していること。
- ③ 修士の学位を有すること。

(3) 各教科に関する専門科目

- ① 物質理学専攻（中学校・高等学校 理科）
課程修了に必要な条件を満たす単位を修得のこと。（P.40参照）
- ② 英米文学専攻（中学校・高等学校 英語）
課程修了に必要な条件を満たす単位を修得のこと。（P.43参照）

医療創生大学学則

〔昭和62年4月1日〕
制 定

目 次

- 第1章 目的（第1条）
- 第2章 学部、学科及び附属教育研究機関（第2条—第4条）
- 第3章 修業年限及び収容定員（第5条・第6条）
- 第4章 教職員組織（第7条）
- 第5章 大学評議会（第8条・第9条）
- 第6章 教授会等（第10条—第13条の2）
- 第7章 学年、学期及び休業日（第14条—第16条）
- 第8章 授業科目、単位及び単位の授与（第17条—第29条）
- 第9章 履修方法（第30条—第32条）
- 第10章 卒業の要件及び学位の授与（第33条）
- 第11章 入学、編入学、転部、休学、退学及び除籍（第34条—第49条）
- 第12章 学費（第50条—第52条）
- 第13章 賞罰（第53条—第55条）
- 第14章 委託生、科目等履修生、外国人学生及び留学生（第56条—第58条）
- 第15章 研究生及び聴講生（第59条—第61条）
- 第16章 公開講座（第62条・第63条）
- 第17章 自己点検・評価等（第64条—第66条）
- 附 則

第1章 目 的

- 第1条 医療創生大学（以下「本学」という。）は、教育基本法並びに学校教育法の定めるところに従い、学術を中心として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力の展開により人間形成に努め、国家、社会に貢献し得る有能な人材を育成すると共に人類の発展に寄与すること及び科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生を教育の理念・目的とする。
- 2 本学は、前項に掲げる目的を実現するための教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

第2章 学部、学科及び附属教育研究機関

- 第2条 本学に次の学部を置く。
- (1) 薬学部
 - (2) 看護学部
 - (3) 健康医療科学部
- 2 本学に大学院を置く。
- (1) 大学院の学則は別に定める。
- 第3条 本学の学部学科は次のとおりとする。
- (1) 薬学部
 - 薬学科
 - (2) 看護学部
 - 看護学科
 - (3) 健康医療科学部
 - 作業療法学科
 - 理学療法学科
- 第3条の2 学部学科ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別表第1に定める。
- 第4条 本学に図書館を置く。
- 2 前項のほか、本学に次の各号の附属教育研究機関を置く。
- (1) 地域連携センター
 - (2) 心理相談センター
- 3 図書館等附属教育研究機関の管理、運営その他必要な事項は別に定める。

第3章 修業年限及び収容定員

- 第5条 薬学部の修業年限は6年とする。ただし、在学年数は12年を超えることができない。
- 2 看護学部の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。
- 3 健康医療科学部の修業年限は4年とする。ただし、在学年数は8年を超えることができない。
- 第6条 収容定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
薬 学 部	薬 学 科	90人	540人
看 護 学 部	看 護 学 科	80人	320人
健康医療科学部	作 業 療 法 学 科	40人	160人
	理 学 療 法 学 科	60人	240人
計		270人	1,260人

第4章 教職員組織

- 第7条 本学に、学長、教授、准教授、講師、助教、助手及び事務職員を置く。ただし、教育研究上の組織編制として適切と認められる場合には、准教授、講師、助教又は助手を置かないことができる。
- 2 前項のほか、副学長、学部長、技術職員、及び客員教員、その他必要な教職員を置くことができる。
- 3 前第1項、第2項のほか、本学に学長補佐、学科主任、図書館長、附属教育研究機関長、学生部長及び事務局長を置くことができる。
- 4 前項のほか、学部長補佐、副附属教育研究機関長等を置くことができる。

第5章 大学評議会

- 第8条 本学に大学評議会を置く。
- 2 大学評議会は学長の諮問に応じて、第9条に掲げる事項を審議する。
- 3 大学評議会は次の各号に掲げる大学評議員をもって組織する。
- (1) 学長
 - (2) 副学長
 - (3) 学部長
 - (4) 大学院研究科長
 - (5) 図書館長
 - (6) 地域連携センター長
 - (7) 心理相談センター長
 - (8) 学部所属教授各2名
- 4 学長は、大学評議会を招集し、その議長となる。
- 5 大学評議会の運営については別に定める。
- 第9条 大学評議会は、次の各号に掲げる事項を審議する。
- (1) 教育、研究に関する全学的重要事項
 - (2) 学則その他重要な規則に関する全学的共通事項
 - (3) 学生の厚生補導及びその身分の基準に関する事項
 - (4) 全学共通教育科目及び全学的な資格科目に関する事項
 - (5) その他必要と認められる事項

第6章 教授会等

- 第10条 本学各学部に教授会を置く。
- 2 教授会は、当該学部にも所属する専任の教授、准教授、講師、助教をもって組織する。
- 3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。
- 4 教授会は、必要があると認めるとき各種の委員会を置くことができる。
- 5 教授会の運営について必要な事項は、別に定める。
- 第11条 教授会は、当該学部に関わる次の各号に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
- (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が定める事項
- 2 教授会は、前項に定めるもののほか、当該学部の教育研究に関する事項について審議し、学長に報告するものとする。
- 3 第1項第3号及び前項に定める事項については、教授会運営細則に定める。
- 第12条 教授会が必要と認めるとき、教授会構成員の一部をもって組織する代表委員会を置くことができる。
- 2 前項の場合、代表委員会の議決をもって、教授会の議決とすることができる。
- 3 代表委員会の審議事項は、教授会が定める。
- 4 代表委員会の組織、運営については別に定める。
- 第13条 本学に、大学全体の運営に関する事項を連絡調整するため学部長会を置く。
- 2 学部長会は、学長、副学長、学部長、大学院研究科長及び事務局長をもって組織する。
- 3 前項のほか、学長が必要と認めるとき、他の教職員を加えることができる。
- 4 学部長会の運営について必要な事項は別に定める。
- 第13条の2 学長が必要と認めるとき、諮問委員会を置くことができる。諮問委員会の組織、運営等について必要な事項は、別に定める。

第7章 学年、学期及び休業日

- 第14条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。
- 第15条 学年を分けて次の二学期とする。
- 前学期 4月1日から 9月21日まで
- 後学期 9月22日から 翌年3月31日まで
- 2 学長は必要により、学期の開始及び終了について、変更することができる。
- 第16条 休業日は次の各号のとおりとする。
- (1) 日曜日

- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 春期休業日 3月23日から 3月31日まで
- (4) 夏期休業日 8月1日から 9月21日まで
- (5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで
- 2 学長は必要により休業日を変更し、もしくは臨時に休業し、又は休業日に授業をさせることができる。

第8章 授業科目、単位及び単位の授与

- 第17条 授業科目は全学共通教育科目（初年次教育科目、リテラシー教育科目、外国語教育科目、一般教養科目、健康・スポーツ教育科目）、専門教育科目に区分される。
- 2 前項の授業科目及び単位数は別表第2、第3、第4及び第5のとおりとする。
- 第18条 前条の授業科目の履修形態は必修科目、選択科目及び自由科目とする。
- 第19条 授業科目の単位数を定めるにあたっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。
- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。
- 2 卒業研究の単位は、薬学部は10単位、看護学部は2単位、健康医療科学部は4単位とする。
- 第20条 卒業研究については、あらかじめ指導教員の指導により題目を決定し、最終学年次の学科指定日までに提出しなければならない。
- 第21条 履修しようとする授業科目は毎学年次のはじめに届出しなければならない。ただし、自由科目、他学部専門教育科目の履修については届出に際し、許可を得なければならない。
- 第22条 単位の認定は、試験によってこれを行う。ただし、授業科目の種類によっては、他の方法によることができる。
- 第23条 試験は定期試験及び臨時試験とし、定期試験は学年末又は学期末に行う。
- 2 試験について必要な事項は別に定める。
- 第24条 いずれの授業科目でも授業時数の3分の1以上欠席した者は、その授業科目の受験資格を失う。ただし、病気又は正当の理由による長期欠席の場合は考慮されることがある。
- 第25条 病気その他やむを得ない事情で試験を受けることができなかった者は、追試験を受けることができる。
- 2 前項により追試験を願ひ出る学生は、指定された期間内に追試験申請書及び必要書類を提出し、許可を得なければならない。
- 3 追試験として認められる事由、必要書類、追試験料及び評価基準は別表第8に定めるとおりとする。
- 第25条の2 教育上、特に必要と認められた場合には、再試験を受けることができる。
- 2 再試験について、必要な事項は別表第9に定める。
- 第26条 授業科目の成績は、S、A、B、C、Fの評価で表わし、S、A、B、Cを合格とし、Fを不合格とする。
- 2 合格判定科目については、P又はHで表し、Pを合格、Hを不合格とする。
- 3 第1項の成績の評価基準は、Sは100点から90点、Aは89点から80点、Bは79点から70点、Cは69点から60点とし、Fは次の各号のいずれかに該当するものとする。
- (1) 59点以下の場合
 - (2) 第24条に定める授業時数の3分の1以上欠席した者
- 4 第2項に定める成績の評価は、学習態度、学習意欲及び提出課題の報告書の提出等の成績を総合的に判断して行う。
- 5 前各号の規定にかかわらず、他大学等において修得した単位を認定する場合は、Tで表す。
- 6 成績の評価について必要な事項は、別に定める。
- 第26条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。
- 2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。
- 3 前項で定める基準については、別に公表する。
- 第27条 進級するためには、別表第7に定める進級基準を満たさなければならない。
- 第28条 学長が教育上有益と認めるときは、他の学部が開設する授業科目を履修することができる。
- 2 前項により修得した単位は、教授会の定めにより、当該単位を卒業に必要な単位として認めることができる。
- 第29条 学長が教育上有益と認めるときは、国内及び諸外国の他大学等の授業科目を履修させることができる。
- 2 前項により学修した授業科目について修得した単位は、教授会の議を経て認定することができる。ただし、60単位を超えて認定することはできない。
- 3 国内及び諸外国の他大学等における授業科目の履修について必要な事項は別に定める。

第9章 履修方法

- 第30条 全学共通教育科目（初年次教育科目、リテラシー教育科目、外国語教育科目、一般教養科目、健康・スポーツ教育科目）のうち必修科目は指定年次に、選択科目は、第5条に定める在学年数内で履修する。
- 2 初年次教育科目については、別表第2(1)に開設する授業科目のうち、学部ごとに定められた科目を修得しなければならない。
- (1) 薬学部にあつては4単位
 - (2) 看護学部にあつては2単位
 - (3) 健康医療科学部にあつては2単位
- 3 リテラシー教育科目については、別表第2(2)に開設する科目2単位を修得しなければならない。
- 4 外国語教育科目については別表第2(3)に開設する科目のうち英語6単位を修得しなければならない。
- 5 一般教養科目については、別表第2(4)に開設する授業科目のうち、次に示す単位数を修得しなければならない。
- (1) 薬学部にあつては、人文科学・社会科学・自然科学、外国語教育科目の選択科目から8単位以上
 - (2) 看護学部にあつては、人文科学・社会科学・自然科学の選択科目からそれぞれ2単位以上計6単位以上
 - (3) 健康医療科学部にあつては、人文科学の必修科目から2単位、社会科学・自然科学の選択科目からそれぞれ2単位計6単位以上
- 6 健康・スポーツ教育科目については、別表第2(5)に開設する授業科目4単位を修得しなければならない。
- 第31条 専門教育科目については、第2項、第3項及び第4項に示す単位数を修得しなければならない。
- 2 薬学部にあつては、別表第3薬学部開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて162単位以上を修得しなければならない。
- 3 看護学部にあつては、別表第4看護学部開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて104単位以上を修得しなければならない。
- 4 健康医療科学部にあつては、別表第5健康医療科学部に開設する授業科目のうち、必修科目及び選択科目を合わせて104単位以上を修得しなければならない。
- 第32条 1年間に履修できる授業科目の単位数は、45単位を超えることができない。
- 2 学長が特に必要と認めるとき、前項に定める上限を超えて履修単位の登録を認めることができる。

第10章 卒業の要件及び学位の授与

- 第33条 本学を卒業するには、看護学部、健康医療科学部は4年以上、薬学部は6年以上在学し、第30条から第32条の規定に従い、看護学部、健康医療科学部は124単位以上、薬学部は186単位以上を修得しなければならない。
- 2 前項の要件を満たした者を卒業と認定し、次の区分により学士の学位を授与する。

薬学部	薬学	科	学士(薬学)
看護学部	看護学	科	学士(看護学)
健康医療科学部	作業療法学	科	学士(作業療法学)
	理学療法学	科	学士(理学療法学)

第11章 入学、編入学、転部、休学、退学及び除籍

- 第34条 本学の入学の時期は、学期の始めとする。
- 第35条 本学に入学することのできる者は次の各号の1に該当するものとする。
- (1) 高等学校を卒業した者
 - (2) 中等教育学校を卒業した者
 - (3) 通常課程による12年の学校教育を修了した者
 - (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - (6) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者
 - (8) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規定による大学入学資格検定に合格した者を含む）
 - (9) その他本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- 第36条 入学は選考の上これを許可する。
- 2 本学へ入学を志願する者は、所定の出願書類を提出し、入学検定料を納めなければならない。
- 3 入学検定料は、別に定める。

- 4 入学者の選考について必要な事項は、別に定める。
- 第37条 入学の許可を得た者は、保証人を定めた上、所定の書類及び学費を納めなければならない。
- 第38条 保証人は父母その他本人につき責任を持ち得る者とする。
- 第39条 他大学等から本学に編入学を希望する者があるときは、学科に欠員ある場合に限る、選考の上、入学を許可することがある。ただし、その時期は学期の始めを原則とする。
- 2 編入学を許可された者の本学入学の諸手続は第38条に準じ、かつ、前学校において履修した単位の修得証明書を提出しなければならない。
- 3 修得単位の認定に関する細則は、別に定める。
- 4 編入学の選考について必要な事項は、別に定める。
- 第40条 本学に編入学できる者は、次の各号の1に該当する者とする。
- (1) 学士の学位もしくは学士号を有する者
 - (2) 短期大学もしくは高等専門学校を卒業した者
 - (3) 学校教育法第58条の2に該当する者
 - (4) 学校教育法第132条に該当する者
 - (5) 大学、短期大学に1年以上在学した者
- 第41条 編入学した者の本学において在学すべき年数は、前条第1項各号に掲げる大学等における修業年数に相当する年数以下の期間を控除した期間とすることができる。
- 2 その他、編入学について必要な事項は、別に定める。
- 第42条 本学が教育上有益と認めるとき、入学する前に大学又は短期大学等において修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として認定することができる。ただし、編入学については、60単位を超えて修得した単位を認定することができる。
- 2 前項により認定された単位数と第29条第2項により認定された単位数の合計は、60単位を超えてはならない。ただし、編入学については、60単位を超えて修得した単位を認定することができる。
- 3 単位の認定について必要な事項は、別に定める。
- 第43条 本学在学中で、他学部への転部を志願する者がある時は、関係教授会の議を経て学長がこれを許可することができる。
- 2 転部に関し、必要な事項は別に定める。
- 第44条 病気その他やむを得ない事由で3ヶ月以上修学できない者は休学することができる。その場合、医師の診断書、又は理由書を添えて休学願を保証人連署の上、提出し許可を得なければならない。
- 2 休学は当該年度限りとする。ただし、引き続き休学を要する者は許可を得て、休学を延長することができる。
- 3 休学期間は通算して修業年限を超えることができない。
- 4 休学期間は在学期間に算入しない。
- 5 休学した者は、休学の事由が消滅したとき、又は休学の期間が満了したときは、復学願を保証人連署の上、提出し許可を得て学期のはじめに復学することができる。
- 第45条 前条第1項により休学を許可された者（以下「休学者」という。）は、別表第6に定める在籍料を納めなければならない。
- 第46条 病気その他の事由により退学する場合は、その理由を添えて保証人と連署の上、願い出て許可を得なければならない。
- 第47条 病気のため1週間以上に及び授業を欠席する場合は、医師の診断書を添えて所定の用紙により届け出なければならない。
- 第48条 次の各号の1に該当する場合は除籍する。
- (1) 在学期間が所定の年数を超える者
 - (2) 学費を滞納し催告しても納入しない者
 - (3) 死亡の届け出があった者
- 2 前項2号により除籍された者が復籍を希望する場合は所定の学費を納めて当該年度末までに復籍願を提出し、許可を得なければならない。
- 第49条 本学を退学した者又は除籍となった者で、退学又は除籍後2年以内に同一学部に戻入学を希望する者は、選考の上、再入学することができる。ただし、第48条第1項第1号により除籍となった者及び第55条により退学した者は、再入学することができない。
- 2 再入学について必要な事項は、別に定める。

第12章 学 費

- 第50条 学費は、入学金、授業料、施設拡充費、実務実習費とし、別表第6のとおりとする。
- 2 入学を許可された者は、所定の期日までに入学手続きと同時に前項の学費及び諸会費を納めなければならない。
- 3 授業料、施設拡充費、実務実習費及び諸会費は所定の期日までに納めなければならない。なお、2期に分けて納めることができる。
- 4 聴講生は、別表第6による登録料及び聴講料を納めなければならない。
- 5 研究生は別表第6による研究指導料を納めなければならない。ただし、実験実習の費用を要する場合には別に実費を納めなければならない。
- 6 科目等履修生は別表第6による登録料及び聴講料を納めなければならない。ただし、実験実習の費用を要する場合には別に実費を納めなければならない。
- 7 いったん納入した学費は返還しない。ただし、入学の許可を得た者で、所定の期日までに入学手続きの取消しを願い出た者については、入学金を除く学費を返還する。
- 第51条 学費を延納しなければならない事由があるときは、直ちにその旨を

願い出て許可を得なければならない。

- 第52条 成績優秀にして学費の支弁が困難な者には、学費を貸与することができる。

第13章 賞 罰

- 第53条 品行方正で学業優秀な者、又は他の学生の範とすべき篤行のある者は表彰することができる。
- 第54条 本学学生にして本分に反した行為があった場合はその軽重に従い謹慎、停学又は退学処分が付される。
- 2 本分に反する行為及びその取扱いについては、別に定める。
- 第55条 次の各号の1に該当する者は退学させることができる。
- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
 - (2) 学業成績劣等で、成業の見込がないと認められる者
 - (3) 正当な理由なく出席常でない者
 - (4) 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
 - (5) 反社会的行為により、法律上の処分又はそれに準ずる扱いを受けた者

第14章 委託生、科目等履修生、外国人学生及び留学生

- 第56条 大学における授業科目の1又は複数を履修しようとする者は選考の上、委託生、科目等履修生として入学を許可することができる。
- 2 委託生及び科目等履修生に関する必要な事項は、別に定める。
- 第57条 外国人で入学しようとする者があるときは、選考の上、外国人学生として入学を許可することができる。
- 第58条 外国人学生に関する必要な事項は別に定める。
- 第58条の2 留学生の別科に関する必要な事項は別に定める。

第15章 研究生及び聴講生

- 第59条 本学において学位取得を目的とせず、特定主題について研究を志願する者があるときは選考の上、研究生として入学を許可することができる。
- 2 研究生に関する必要な事項は、別に定める。
- 第60条 本学において聴講を志願する者があるときは、当該学部の教育及び研究に妨げのない場合に限る、聴講生として入学を許可することができる。
- 2 聴講生に関する必要な事項は、別に定める。
- 第61条 聴講生は聴講した授業科目について試験を受けることができる。試験に合格した時は本人の請求により証明書を与える。

第16章 公開講座

- 第62条 本学に公開講座を開設することができる。
- 第63条 公開講座に関する規定は、別に定める。

第17章 自己点検・評価等

- 第64条 本学の教育研究水準の向上を図り、本学設置の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等について自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。
- 2 前項の自己点検・評価の結果について、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を受けるものとする。
- 3 自己点検・評価の実施について必要な事項は、別に定める。
- 第65条 本学は、本学教員の教育研究活動及び職員等の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 2 前項の研修及び研究の実施について必要な事項は、別に定める。
- 第66条 本学は、教育研究活動等の状況並びに教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報等（以下「教育情報」という。）を公表する。
- 2 教育情報の公表について必要な事項は、別に定める。
- 附 則 本学則は、昭和62年4月1日から施行する。
- 附 則 本学則は、昭和63年4月1日から施行する。ただし、昭和62年度入学生については、別表第11（学費）に限り従前の例による。
- 附 則 本学則は、平成元年4月1日から施行する。ただし、昭和63年度以前の入学生については、別表第11（学費）に限り従前の例による。
- 附 則 本学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、平成元年度以前の入学生については、別表第11（学費）に限り従前の例による。
- 附 則 本学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、平成2年度以前の入学生については、別表第2（一般教育科目等授業科目及び単位数）から別表第11（学費）に限り従前の例による。
- 2 第5条の規定にかかわらず、入学定員は、平成3年度より平成11年度までの間は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員
理 工 学 部	基 礎 理 学 科	60人
	物 性 学 科	60人
	電 子 工 学 科	120人
	機 械 工 学 科	120人
人 文 学 部	日 本 文 学 科	90人
	英 米 文 学 科	90人
	社 会 学 科	90人
合 計		630人

3 第25条第1項の人文学部社会学科の高等学校教諭1種免許状「地理歴史」及び「公民」の教科に関して、及び別表第6（教職課程授業科目及び単位数）については、平成2年度人文学部社会学科入学生に対しても適用するものとする。

附 則 本学則は、平成4年4月1日から施行する。ただし、平成3年度以前の入学生については、別表第2（一般教育科目等授業科目及び単位数）から別表第11（学費）に限り従前の例による。また学位の授与については平成3年度卒業生に対しても適用する。

附 則 本学則は、平成8年4月1日から施行する。ただし、平成7年度以前の入学生については、別表第2（一般教育科目等授業科目及び単位数）から別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成9年4月1日から施行する。ただし、平成8年度以前の入学生については、第8章（授業科目及び単位）、第9章（履修方法）及び別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、平成9年度以前の入学生については別表第11（学費）に限り従前の例による。

附 則

- 1 本学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、入学定員は平成12年度より平成16年度までの間は次のとおりとする。

学部学科	年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
理 工 学 部	基礎理学科	60人	60人	60人	60人	60人
	物性学科	50人	40人	40人	40人	40人
	電子工学科	119人	118人	112人	106人	100人
	機械工学科	119人	118人	112人	106人	100人
人 文 学 部	日本文学科	87人	82人	79人	76人	73人
	英米文学科	84人	80人	78人	75人	72人
	社会学科	90人	90人	86人	83人	80人
合 計	609人	588人	567人	546人	525人	

附 則

1 本学則は、平成13年4月1日から施行する。ただし、第3条は、平成13年度入学生より適用する。

2 [基礎理学科、物性学科、電子工学科、日本文学科、英米文学科、社会学科の存続に関する経過措置]

基礎理学科、物性学科、電子工学科、日本文学科、英米文学科、社会学科は、学則第3条の規定にかかわらず平成12年3月31日に当該学科に在籍する者が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 第6条及び平成12年附則第2項の規定にかかわらず、入学定員は平成13年度より平成15年度までの間は次のとおりとする。

学部学科	年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
理 工 学 部	環境理学科	105人	98人	94人
	電子情報学科	98人	92人	86人
	機械工学科	97人	91人	85人
人 文 学 部	言語文化学科	126人	125人	123人
	現代社会学科	87人	86人	83人
	心理学科	75人	75人	75人
合 計	588人	567人	546人	

附 則 本学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成16年4月1日から施行する。ただし、第43条の復学の時期については平成15年度以前の入学生についても適用する。また、別表第11学費の入学検定料は平成15年4月1日から適用する。

附 則

1 本学則は、平成17年4月1日から施行する。ただし、平成16年度以前の入学生については従前の例による。

2 [環境理学科、電子情報学科、機械工学科、言語文化学科の存続に関する経過措置]

環境理学科、電子情報学科、機械工学科、言語文化学科は、学則第3条の規程にかかわらず平成17年3月31日に当該学科に在籍する者が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則 本学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、科学技術学部生命環境学科の選択科目「自然体験プログラム」追加は、平成17年度以降入学者にも適用する。

附 則 本学則は、平成20年6月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

1 本学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成21年度以前の入学生については従前の例による。

2 [生命環境学科、電子情報学科、システムデザイン工学科の存続に関する経過措置]

生命環境学科、電子情報学科、システムデザイン工学科は、学則第3条の規定にかかわらず平成22年3月31日に当該学科に在籍する者が当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則 本学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成22年度以前の入学生については、第32条に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成26年4月1日から施行する。ただし、第21条第1項第3号、第24条第1項第3号及び別表5については、平成25年度入学生から適用する。

附 則 本学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、平成26年度以前の入学生については従前の例による。

2 [科学技術学部科学技術学科の存続に関する経過措置]

科学技術学部科学技術学科は、学則第3条の規定にかかわらず平成27年3月31日に当該学部学科に在籍する者が当該学部学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 [人文学部表現文化学科、現代社会学科、心理学科の存続に関する経過措置]

人文学部表現文化学科、現代社会学科、心理学科は、学則第3条の規定にかかわらず平成27年3月31日に当該学部学科に在籍する者が当該学部学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

4 第6条の規定にかかわらず、平成23年度から平成26年度までの入学生については、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
科 学 技 術 学 部	科 学 技 術 学 科	130人	520人
人 文 学 部	表 現 文 化 学 科	90人	360人
	現 代 社 会 学 科	95人	380人
	心 理 学 科	90人	360人
薬 学 部	薬 学 科	90人	540人
計		495人	2,160人

附 則 本学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、平成28年度以前の入学生については従前の例による。

附 則 本学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成30年度以前の入学生については従前の例による。

2 [教養学部 地域教養学科の存続に関する経過措置]

教養学部 地域教養学科は、学則第3条の規定にかかわらず平成31年3月31日に当該学部学科に在籍する者が当該学部学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

3 第6条の規定にかかわらず、平成28年度から平成30年度までの入学生については、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
教 養 学 部	地 域 教 養 学 科	120人	480人
薬 学 部	薬 学 科	90人	540人
看 護 学 部	看 護 学 科	80人	320人
計		290人	1,340人

4 大学の名称変更については、平成31年4月1日以降に在籍するすべての学生に適用する。

5 別表第7進級基準については、平成30年度以前の入学生にも適用し、平成31年4月1日から施行する。

6 留学生別科については、平成31年4月1日から施行する。

医療創生大学大学院学則

〔平成4年4月1日〕
制 定

第1章 総 則

(目 的)

第1条 医療創生大学大学院（以下「本大学院」という。）は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、学部に於ける一般的並びに専門的教育の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論及び応用を教授研究してその深奥を究め、さらに独創的研究により知的、道德的及び応用的能力の展開により全人間形成につとめ、国家、社会に貢献し得る有能な人材の育成、及び科学的根拠に基づいた術を備えた慈愛のある医療人の創生を教育の理念・目的とする。

(構 成)

第2条 本大学院に次の研究科を設ける。

理工学研究科
人文学研究科

(課程及び専攻)

第3条 本大学院の各研究科に次の課程及び専攻を置く。

理工学研究科	修士課程	物質理学専攻 物理工学専攻
	博士課程	物質工学専攻
人文学研究科	修士課程	日本文学専攻 英米文学専攻 社会学専攻 臨床心理学専攻
		博士課程

第3条の2 研究科専攻ごとの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別表第1に定める。

(修業年限と在学年限)

第4条 本大学院各研究科修士課程の修業年限は2ケ年とする。
本大学院修士課程に4ケ年を超えて在学することはできない。
本大学院各研究科博士課程の修業年限は3ケ年とする。
本大学院博士課程に6ケ年を超えて在学することはできない。

(収容定員)

第5条 本大学院研究科の収容定員は次のとおりとする。

研究科	課程	専攻	入学定員	収容定員
理工学研究科	修士課程	物質理学専攻 物理工学専攻	7名 7名	14名 14名
	博士課程	物質工学専攻	2名	6名
人文学研究科	修士課程	日本文学専攻 英米文学専攻	5名 5名	10名 10名
		社会学専攻 臨床心理学専攻	5名 10名	10名 20名
	博士課程	日本文学専攻	2名	6名

第2章 教員組織

(教 員)

第6条 本大学院各研究科に、以下の教員を置く。

- (1) 研究科長
- (2) 研究科専攻主任
- (3) 研究科委員会の議を経て学長が委嘱する教授
- 2 前項第2号のほか、専攻副主任を置くことができる。
- 3 第1項第3号のほか、研究科委員会の議を経て学長が委嘱する准教授、講師、助教、客員教授を置くことができる。

第3章 研究科委員会

(組 織)

第7条 本大学院研究科に、本則第8条に掲げる事項を審議するため研究科委員会をおく。

- 2 研究科委員会は、各研究科に所属する専任の教授、准教授、講師、助教を以て組織する。
- 3 研究科長は、研究科委員会を招集し、その議長となる。
- 4 研究科委員会の運営については、別に定める。

(審議事項)

第8条 研究科委員会は、当該研究科に関わる次の各号に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、学長が定める事項
- 2 研究科委員会は、前項に定めるもののほか、当該研究科の教育研究

に関する事項について審議し、学長に報告するものとする。

- 3 第1項第3号及び前項に定める事項については、研究科委員会運営細則に定める。

(連合委員会)

第9条 学長が必要と認めるとき、連合の研究科委員会を開くことができる。

第4章 自己点検・評価等

(大学院自己点検・評価等)

第10条 本大学院に関する自己点検・評価については、本学自己評価運営委員会の規定の定めるところによる。

第10条の2 本大学院に関するファカルティ・ディベロップメント及びスタッフ・ディベロップメントについては、本学FD・SD委員会の規定の定めるところによる。

第5章 学年、学期及び休業日

(学 年)

第11条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(学 期)

第12条 学年を分けて、前学期（自4月1日、至9月21日）、後学期（自9月22日、至翌年3月31日）とする。

- 2 学長は必要により学期の開始終了について、変更することができる。

(休 日)

第13条 休業日は、下記のとおり定める。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (3) 春期休業日 3月23日から 3月31日まで
- (4) 夏期休業日 7月22日から 9月21日まで
- (5) 冬期休業日 12月25日から 翌年1月7日まで

- 2 学長は必要により前項の休業日を変更し、学期中に臨時に休業し、又は休業日に臨時に授業を行わせることができる。

第6章 教育課程及び履修方法

(科目と単位)

第14条 本大学院の理工学研究科、人文学研究科各専攻修士課程・博士課程の授業科目、単位数及びその履修方法は別表第2のとおりとする。

(履 修 要 件)

第15条 本大学院修士課程においては専攻の授業科目について30単位以上を履修し、学位論文を提出し、さらに最終試験を受けなければならない。

(履修科目の申告)

第16条 履修しようとする授業科目については当該指導教授の承認を経て、所定の期日までに、大学院事務局に申告しなければならない。

(他研究科及び他大学の大学院の授業科目の履修又は留学)

第17条 指導教授が必要と認め、かつ当該研究科委員会が認める場合は、所定の手続きを経て本大学院の他の研究科の授業科目を指定して履修させることができる。

- 2 他大学大学院の授業科目の履修及び研究指導が教育上有益であると当該研究科委員会が認めるときは、あらかじめ当該他の大学と協議の上、授業科目の履修及び研究指導を受けることができる。

- 3 外国の大学院又はこれに相当する高等教育機関において修学することが教育上有益であると当該研究科委員会が認めるときは、あらかじめ当該外国の大学等と協議の上、留学することができる。

- 4 留学の期間は、1年に限り在学年数に算入することができる。

- 5 前項の規定により修得した単位及び修学の成果は、本大学院において修得した単位及び修学の成果とみなす。

- 6 前項の規定により本大学院において修得したものとみなすことができる単位数は10単位までとする。

(教 職 課 程)

第18条 本大学院修士課程において、教育職員免許状（各種専修免許状）を取得しようとする者は、各研究科配当の関係科目の中から教育職員免許法及び同施行規則に定める必要な単位数を修得しなければならない。ただし、各種教諭一種免許状の取得資格を有するものに限る。

(免許状の種類)

第19条 本大学院修士課程において、取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりである。

- (1) 理工学研究科
物質理学専攻 中学校教諭専修免許状（理科）
高等学校教諭専修免許状（理科）
物理工学専攻 高等学校教諭専修免許状（工業）
- (2) 人文学研究科
日本文学専攻 中学校教諭専修免許状（国語）
高等学校教諭専修免許状（国語）
英米文学専攻 中学校教諭専修免許状（英語）
高等学校教諭専修免許状（英語）
社会学専攻 中学校教諭専修免許状（社会）
高等学校教諭専修免許状（公民）

(公認心理師)

第20条 本大学院修士課程において、公認心理師の受験資格を受けようとする者は、別表第4に定める科目を履修し、単位を修得しなければならない。

第7章 単位の取得、試験及び学位論文

(単位の取得)

第21条 本大学院において所定の学科目を履修した者に対しては、毎学期あるいは学年末に試験を行い、合格した者に対して単位を与える。

(成績の評価)

第22条 試験の成績は、S、A、B、C、Fの評価で表わし、S、A、B、Cを合格とし、Fを不合格とする。

- 前項の試験成績の評価基準は、Sは100点から90点、Aは89点から80点、Bは79点から70点、及びCは69点から60点とし、59点以下はFとする。
- 前各項の規定にかかわらず、他大学院等において習得した単位を認定する場合は、Tで表す。
- 学位論文の成績の評価の方法は、研究科委員会で定める。
- 成績の評価について必要な事項は、別に定める。

(論文提出と研究計画の承認)

第23条 修士及び博士の学位論文を提出しようとする者は、論文の主題とその研究計画書を当該指導教授に提出し、その承認を受けなければならない。

(学位論文の提出)

第24条 修士及び博士の学位論文は、正副2部作成し、当該指導教授を通じて研究科長に提出するものとする。

(学位論文の提出期限)

第25条 修士及び博士の学位論文は、在学期間中に提出せしめ、又審査を終了するものとする。

(論文の審査)

第26条 修士及び博士の学位論文の審査は、審査委員会がこれにあたる。

- 論文の審査基準については、別に定める。

(審査の報告)

第27条 審査委員会は審査及び論文の評価に関する意見を記載した審査報告書を当該研究科委員会に提出しなければならない。

(最終試験)

第28条 最終試験は、審査委員が学位論文を中心として、これに関連ある科目について行う。

(論文と最終試験の判定)

第29条 学位論文及び最終試験の合格、不合格は、審査委員会の報告に基づき、当該研究科委員会が決定する。

- 研究科委員会の議を経た判定結果は、学長に報告するものとする。

第8章 課程修了の要件及び学位の授与

(課程修了要件)

第30条 修士課程を修了するためには、2年以上在学して、専攻の定める所要授業科目について30単位以上を修得し、更に学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

- 博士課程を修了するためには、3年以上在学して、専攻の定める所要授業科目について、物質理工学専攻では16単位以上、日本文学専攻では14単位以上を修得し、並びに物理工学専攻(修士課程)の定める所要授業科目のうち、14単位以上を修得しなければならない。

- 第32条2項3号に定める入学資格により、物質理工学専攻へ入学した者においては、専攻の定める所要授業科目の16単位に加え、物質理工学専攻(修士課程)並びに物理工学専攻(修士課程)の定める所要授業科目のうち、14単位以上を修得しなければならない。
- 前項の規定にかかわらず在学期間に関しては、優れた研究業績を上げたものと研究科委員会において認めた場合には、1年以上在学すれば足りるものとする。
- 第1項の修士課程の修了の認定は、その研究に必要な1か国以上の外国語に通じていることを条件とする。

(学位の授与)

第31条 本大学院の学位論文審査、最終試験の方法、その他学位に関する事項は本学学位規則の定めるところによる。

第9章 入学、休学、退学

(入学の時期)

第32条 入学の時期は学期の始めとする。

(入学資格)

第33条 本大学院の修士課程に入学できる者は、次の各号の1に該当する者とする。

- 大学を卒業した者
- 文部科学大臣の指定した機関によって大学卒業の学力を有すると認定された者
- 外国において通常の課程による16年の学校教育を終了した者
- 本大学において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認定

した者

2 本大学院の博士課程に入学できる者は、次の各号の1に該当する者とする。

- 修士の学位を有する者
- 外国において修士の学位又はこれに相当する学位を得た者
- 本大学において大学院修士課程を修了した者と同等以上の学力があると認定した者

(入学志願手続)

第34条 本大学院の修士課程に入学を志望する者は、指定の期間内に、別に定める入学検定料を添えて、次の書類を提出しなければならない。

- 入学願書
- 履歴書
- 最終出身学校長の卒業又は卒業見込証明書及び成績証明書
- 最近撮影の写真
- その他大学が必要と認めた書類

2 本大学院の博士課程に入学を志望する者は、指定の期間内に、別に定める入学検定料を添えて、次の書類を提出しなければならない。

- 入学願書
- 履歴書
- 修士課程の学位取得証明書または見込証明書及び成績証明書
- 最近撮影の写真
- その他大学が必要と認めた書類

(入学考査)

第35条 入学志願者に対しては、学力、その他について考査する。

- 入学者の選考について必要な事項は、別に定める。

(入学手続)

第36条 入学を許可された者は別に定める入学金及び授業料その他を添えて所定の用紙に依る保証人、副保証人連署の在学誓約書を提出しなければならない。

(保証人の変更)

第37条 転居その他の理由によって保証人を変えた場合は保証人変更届と共に新たに在学誓約書を提出しなければならない。

(休学)

第38条 病気その他、やむを得ない事由により、引き続き2ヶ月以上修学することができないときは、学長の許可を得て、1ヶ年以内休学することができる。ただし、特別の事由がある場合、引き続き休学を許可するが、通算して2ヶ年をこえることができない。

- 休学期間中でも、その事由が終わったときは、届け出て復学することができる。
- 休学の期間は在学年数に算入しない。

(休学中の学費)

第39条 前条第1項により休学を許可された者(以下「休学者」という)は別表第3に定める在籍料を納めなければならない。

(退学)

第40条 病気その他、やむを得ない事由のため、学業を続ける見込みがないときは願い出て退学することができる。

(除籍)

第41条 学生が、次の各号の1に該当する場合は、学長は当該研究科委員会の議を経て、当該学生を除籍することができる。

- 正当な理由なく長期に亘り欠席し、成業の見込みがないと認められる者
- 所定の学費を納入しない者
- 修士課程において、同一専攻に在学4年におよんでなお修了できない者
- 博士課程において、同一専攻に在学6年におよんでなお修了できない者

(再入学)

第42条 やむを得ない事由で退学した者が、再入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合に限り、選考の上再入学を許可することができる。ただし、第45条に規定する罰則により退学した者については、再入学は許可しない。

第10章 学費

(学費)

第43条 学費は、入学金、授業料、施設拡充費とし、別表第3のとおりとする。

- 入学を許可された者は、所定の期日までに入学手続きと同時に前項の学費を納めなければならない。
- 授業料、施設拡充費は、所定の期日までに納めなければならない。なお、2期に分けて納めることができる。
- 博士の学位論文の審査に際し、別表第3に定める博士論文審査料を納付しなければならない。
- 博士課程に3年以上在学し、学位論文を作成するために引き続き在学する者は、学位取得候補生と称し、別表第3に定める学位論文指導料を納めなければならない。
- いったん納入した学費は返還しない。ただし、入学の許可を得た者で、所定の期日までに入学手続きの取消しを願い出た者については、入学金を除く学費を返還する。
- 学費を延納しなければならない事由があるときは、直ちにその旨を願い出て許可を得なければならない。

第11章 賞 罰

(表 彰)

第44条 品行方正で学業優秀な者、または、他の学生の模範とすべき篤行ある者は、表彰することができる。

(罰 則)

第45条 本大学院学生にして、学生の本分に反する行為があった場合は、その軽重に従い譴責、停学または除籍、退学処分に付される。

2 次の各号の1に該当する者は退学させることができる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- (2) 学業成績劣等で成業の見込みがないと認められた者
- (3) 正当な理由なく出席常でない者
- (4) 大学秩序を乱し、その他本大学院学生としての本分に反した者
- (5) 反社会的行為により、法律上の処分又はそれに準ずる扱いを受けた者

第12章 委託生、聴講生、外国人学生

(委 託 生)

第46条 他の大学院又は外国の大学院の委託により、本大学院の授業科目の履修又は研究指導を希望する場合は、当該他の大学院等と協議して定めるところにより、研究科において委託生として受け入れを許可することができる。

(聴 講 生)

第47条 本大学院における授業科目のうち1科目又は数科目を選んで聴講を希望する者があるときは、研究科において、選考の上聴講を許可することができる。

2 聴講生の入学の時期は学年始めとする。

(外国人学生)

第48条 外国人で本大学院に入学を希望する場合は、研究科において、選考の上外国人学生として入学を許可することができる。

2 外国人学生は収容定員外とすることができる。

第49条 委託生、聴講生及び外国人学生に対しては、学生に関する規程のすべてを準用する。

附 則 本学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 本学則は平成6年4月1日から施行する。ただし、平成5年度以前の入学生については、別表第3（学費）に限り従前の例による。

附 則 本学則は平成7年4月1日から施行する。ただし、別表第3（学費）に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、別表第3（学費）に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成13年4月1日から施行する。ただし、別表第3（学費）に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成16年4月1日から施行する。ただし、別表第3（学費）は平成15年度以前の入学生についても適用する。

附 則 本学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成20年6月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成21年度以前の入学生については、別表第3（学費）に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成22年度以前の入学生については、第21条に限り従前の例による。

附 則 本学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 本学則は、平成31年4月1日から施行する。

学位規程

〔平成4年4月1日〕
制 定

(趣 旨)

第1条 この規程は、学位規則(昭和28年文部省令第9号)の規定に基づき、本学において授与する学位にかかわる、学位論文の審査、最終試験の方法その他学位に関し必要な事項を定めるものとする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、次の通りとする。

(1) 学士の学位

学 部	学 科	学 位
科学技術学部	科学技術学科	学士(理工学)
人文学部	表現文化学科	学士(文学)
	現代社会学科	学士(社会学)
薬学部	心理学科	学士(心理学)
	薬学科	学士(薬学)
教養学部	地域教養学科	学士(教養)
看護学部	看護学科	学士(看護)
健康医療科学部	作業療法学科	学士(作業療法学)
	理学療法学科	学士(理学療法学)

(2) 修士の学位

研究科	専 攻	学 位
理工学研究科	物質理学専攻	修士(物質理学)
	物理工学専攻	修士(物理工学)
人文学研究科	日本文学専攻	修士(日本文学)
	英米文学専攻	修士(英米文学)
	社会学専攻	修士(社会学)
	臨床心理学専攻	修士(臨床心理学)

(3) 博士の学位

研究科	専 攻	学 位
理工学研究科	物質理工学専攻	博士(理工学)
人文学研究科	日本文学専攻	博士(日本文学)

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、医療創生大学学則(昭和62年4月1日)に定めるところにより、卒業と認められた者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、医療創生大学大学院学則(平成4年4月1日。以下「大学院学則」という。)に定めるところにより、修士課程を修了したと認められた者に授与する。

(博士の学位授与の要件)

第5条 博士の学位は、大学院学則に定めるところにより、博士課程を修了したと認められた者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、博士課程を経ない者であっても博士論文の審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された場合は、これを授与することができる。

(論文の提出)

第6条 修士及び博士の学位の論文は、論文題目、研究内容等を提出期限までに当該指導教授に届け出て、あらかじめ承認を受け、論文提出期限までに正副2部作成し、当該指導教授を通じて研究科長に提出するものとする。

2 前項の論文題目、研究内容等の提出期限及び論文提出期限に遅れた場合は、その学位論文を受理しない。

3 前条第2項の規定により、博士の学位の授与を申請する者は、学位申請書に学位論文、履歴書、学位論文の要旨及び論文審査手数料を添え、研究科長を経て学長に提出しなければならない。

4 研究科長は、第1項及び前項の学位論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて研究科委員会の審査に付さなければならない。

5 学位論文のほかに、審査に必要と認められる資料等を提出させることがある。

(論文の審査)

第7条 論文の審査は、研究科委員会の定める審査委員会がこれに当たる。

2 審査委員会は、学位論文に関連する学科目を担当する本学の教員3人以上の委員をもって構成する。

3 前項の規定にかかわらず、審査に当たっては、他の大学院又は研究所等の教員等の協力を得ることができる。

4 審査委員は、研究科委員会の議を経て研究科長が指名するものとする。

5 審査に当たっては、第5条第2項の規定に定める者以外においても、別途定める審査手数料を徴収することができる。

6 審査にかかわる学位論文及び審査手数料は、いかなる事由があっても返付しない。

(最終試験)

第8条 最終試験は、前条の審査委員会が学位論文を中心として、これに関連する専攻の授業科目及び1箇国以上の外国語について、口答又は筆記試験によって行う。

(審査及び最終試験期間)

第9条 修士の学位の論文審査及び最終試験は、学位論文提出期限後おおむね3箇月以内に修了するものとする。

2 学位論文が提出されたときは、その提出日から1年以内に学位論文の審査、試験及び学力認定を修了するものとする。

(審査の報告)

第10条 審査委員会は、学位論文の審査の結果及び最終試験の成績を記録して、研究科委員会に報告するものとする。

(判定)

第11条 研究科委員会は、審査委員会の報告に基づき、学位論文の審査及び最終試験の可否を議決する。

2 前項の議決には、構成員の3分の2以上の出席を必要とし、かつ、出席者の3分の2以上の賛成がなければならない。

(研究科長の報告)

第12条 研究科委員会において、学位が授与できる者と議決したときは、研究科長は、学位論文の審査及び最終試験の結果の要旨等を学長に報告しなければならない。

(学位記の授与)

第13条 学長は、前条の規定による報告に基づいて、学位授与の要件を満たした者に対し、該当する学位記を授与する。

(博士論文等の公表)

第14条 研究科委員会は、博士の学位を授与した日から3箇月以内に、その学位論文の内容の要旨及び論文審査の要旨をインターネットの利用により公表する。

2 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内にその学位論文をインターネットにより、公表しなければならない。ただし、既に公表してあるときは、この限りでない。

3 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者が、やむを得ない事由により当該論文の全文を公表できないときは、研究科委員会の承認を得て、全文に代えてその内容を要約したものをインターネットの利用により、公表することができる。

4 第2項の規定により公表する場合は、当該論文に「医療創生大学審査論文(博士)」、前項の規定により公表する場合は、当該論文に「医療創生大学審査論文(博士)の要旨」と明記しなければならない。

(報告)

第15条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3箇月以内に文部科学大臣に報告するものとする。

(学位の名称)

第16条 学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは、当該学位に大学名を付記するものとする。

(学位の取消し)

第17条 本学において学位の授与を受けた者が次の各号の1に該当する場合は、研究科委員会の議を経て、学長は、その学位を取り消し、学位記を返付させ、その旨を公表するものとする。

(1) 不正の方法により学位の授与を受けたことが判明した場合

(2) 名誉を汚す行為を行ったものと認められた場合

(学位記の再交付)

第18条 学位記の再交付を受けようとする者は、理由を明記して、学長に申請しなければならない。

(学位記の様式)

第19条 学位記の様式は、別記様式のとおりとする。

(雑 則)

第20条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、教授会若しくは研究科委員会の意見を聴いて、学長が定める。

(改 廃)

第21条 この規程の改廃は、教授会若しくは研究科委員会の意見を聴いて、大学評議会の議を経て学長がこれを行う。

附 則 この規程は、平成4年4月1日から施行する。ただし、学士の学位については、平成3年度卒業生にも適用する。

附 則 この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成17年4月1日から施行する。ただし、従前の学部学科は従前のとおりとする。

附 則 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成22年4月1日から施行する。ただし、従前の学部学科は従前のとおりとする。

附 則 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成25年11月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

研究生規程

〔昭和63年4月1日〕
制 定

(趣 旨)

第1条 医療創生大学学則(昭和62年4月1日。以下「学則」という。)第59条第2項による研究生について必要な事項は、この規程の定めるところによる。

(定 義)

第2条 研究生とは、専門事項の研究のため研究主題を定め、特定の教員の指導を受けて研究する者をいう。

(入 学 資 格)

第3条 研究生として入学することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者でなければならない。

(出願手続及び入学許可)

第4条 研究生として入学を希望する者は、別に定める手続を経て入学願書を学長に提出するものとする。

2 研究生の入学は、学科主任、学部長を経由して教授会の議を経て、学長が許可する。

(入 学 時 期)

第5条 入学の時期は、学年又は学期始めとする。ただし、特別の事情があると認められた場合は、この限りではない。

(研 究 期 間)

第6条 研究期間は、1年以内とする。ただし、研究上の必要が認められた場合には、正規学生の研究及び指導に支障のない限り延長を許可することがある。

2 前項の期間の延長を希望する場合には、別に定める期日までに理由を付して所定の書類を提出し学長の許可を得るものとする。

(研 究 報 告)

第7条 研究生は、研究経過とその成果の概要を記した研究報告書を指導教員、学科主任、学部長を経由して、学長に提出するものとする。

(研究証明書)

第8条 研究生には、研究証明書を交付することができる。

(研究生の退学及び除籍)

第9条 研究生が中途退学しようとするときは、指導教員、学部長を経由して学長に願出しなければならない。

2 研究生で研究の実があがらないとき、又は研究生の本分に反する行為があったときは、学長は、教授会の意見を聴いて除籍する。

(雑 則)

第10条 この規程の実施に関し必要な事項は、教授会の意見を聴いて学長が定める。

(準 用)

第11条 前各条以外の規定については、学則を準用する。

(改 廃)

第12条 この規程の改廃は、教授会の意見を聴き、大学評議会の議を経て、学長が行う。

附 則 この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

研究生細則

〔昭和63年4月1日
制 定〕

1. 出願資格

大学を卒業した者又は本学がこれと同等以上の学力があると認めらる者であつて、研究主題を定め、本学において特定の教員の指導のもとに研究しようとするもの。

2. 出願書類

- (1) 検定料納入票（所定用紙）
- (2) 医療創生大学研究生願書（所定用紙）
- (3) 履歴書（所定用紙、写真を貼ること。）
- (4) 出身学校卒業証明書（本学の卒業者は、不要とする。）
- (5) 可否通知送付用封筒（郵便番号、住所、氏名を記入し、返信用の切手を貼る。）
- (6) 健康診断書
- (7) 所属長の承諾・確約書（在職中の者）
- (8) 外国人の場合は、前各号のほか次の書類を必要とする。
ア 外国人登録原票の写し（在留資格及び在留期間の記載のあるもの）
イ 身元保証書（日本在住者のもの）

3. 検定料

25,000円 願書受付日に納入すること。

4. 願書受付期間・受付場所

[通年・前学期] 各年、2月1日から2月28日まで
[後学期] 各年、7月1日から7月31日まで
ただし、外国人の受付期間については、この限りではない。
受付は、教務課とし、10時から15時、土曜日は正午までとする。

5. 選抜方法

原則として書類選考とする。ただし、必要があれば、面接を行う。

6. 指導教員（専任講師以上）

指導教員は、研究内容により当該学部で定めるものとする。ただし、特定教員の指導を希望する場合は、あらかじめ当該教員の内諾を得ておくことが望ましい。

7. 入学の時期及び期間

入学の時期は、学期の始めとする。期間は1箇年以内とする。
[通年] 各年、4月1日から翌年3月31日まで
[前学期] 各年、4月1日から9月30日まで
[後学期] 各年、10月1日から翌年3月31日まで
ただし、研究生規程第5条により、学期の途中で入学が認められた者は、月初めの1日からとする。

8. 合格発表

合格、不合格とも本人あてに郵送で通知する。
[通年・前学期] 各年、3月中旬
[後学期] 各年、8月中旬

9. 研究指導料

薬学部	300,000円
教養学部	150,000円
看護学部	300,000円
健康医療科学部	200,000円

指定の期間に納入する。ただし、研究に要する実費（実験、実習費等）は、別に追加徴収することがある。また、半期研究の場合の研究指導料は、2分の1とする。なお、途中入学者については、上記金額を月割りにより計算する。

10. この細則に定めるもののほか、必要な事項については教授会の意見を聴いて学長が定める。

11. この細則の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

参考事項

1. 合格者の手続

合格者は、所定の期間内に提出書類とともに研究指導料納入の手続を完了すること。指定期間内に手続しない場合は、棄権したものとみなす。

提出書類：(1) 研究指導料納入票（所定用紙）
(2) 誓約書（所定用紙、保証人連帯とする。）
(3) 本人の住民票原本の写し又は登録原票記載事項証明書（市区町村役場発行のもの）
(4) 写真2枚（タテ4cm×ヨコ3cm、裏面に氏名を記入する。）

2. その他

研究期間が終了したとき、研究生は、その研究成果の概要を記した研究報告書を指導教員、学科主任、学部長を経て学長に提出するものとする。

附 則 この細則は、昭和63年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成2年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成17年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成18年7月5日から施行する。
附 則 この細則は、平成22年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成24年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成27年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成29年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成30年4月1日から施行する。
附 則 この細則は、平成31年4月1日から施行する。

医療創生大学科目等履修生 申込手続要領

1. 科目等履修生となるための資格・受講条件等

- ① 受講可否判定のための選考試験（面接や筆記等）を行う。選考試験の内容や方法等については、受講予定者が単位取得を希望する科目の担当者が決定し、実施する。なお、教職関連科目については、別途教職課程委員がその任にあたる。
- ② 正科学生の教育に支障を生ずるおそれがないと認めうる場合に限り認められる。
- ③ また、受講者数に制限のある科目については余裕のある場合に限り認める。
- ④ 受講生は1年間に30単位を超えて受講することはできない。
- ⑤ 受講期間は1年間とする。

2. 出願期間

通年・前期 3月11日～3月16日
後期 8月24日～8月31日
平日 9:00～16:00
土曜日 9:00～12:00

3. 手続方法

- ① 所定の用紙に必要事項を記入し、出願期間内に教務課へ提出すること。
 - ・志願票-1（本学所定の様式）
 - ・志願票-2（本学所定の様式）
 - ・履歴書（本学所定の様式、必ず写真貼付すること）
 - ・健康診断（一般健康診断（学校保健法により、胸部レントゲン写真を検査項目に必ず含むもの、検査結果1年以内有効）※なお、教職の資格取得を目的とする場合は、希望する免許の種類によって、最終学歴の成績証明書の提出を求める場合がある。
- ② 選考結果については、通年・前期の履修を希望する者は3月末日までに、後期の履修を希望する者は9月中旬までに通知する。
- ③ 受講を許可された者は、通知後、1週間以内に登録料及び受講料を納入し、併せて誓約書及び受講証用の写真（タテ4cm×ヨコ3cm）1枚を提出すること。手続完了後、科目等履修生証を交付する。

4. 登録料

10,000円

※休講及びやむを得ない事由により受講できない場合は、その責を負わず、原則として登録料は返還されない。

5. 受講料

（1単位につき）10,000円

※本学卒業生の場合は「（1単位につき）5,000円」とする。

※休講及びやむを得ない事由により受講できない場合は、その責を負わず、原則として受講料は返還されない。

6. その他

- ① 教職の資格取得を目的とする場合、原則として教育実習の斡旋は行わない。
- ② 受講する際は、必ず科目等履修生証を携帯すること。期間の終了後、又は何等かの理由により受講を中止する時は、直ちに科目等履修生証を教務課へ返還すること。

医療創生大学聴講生 申込手続要領

1. 聴講生となるための資格・受講条件等

- ① 教養を深めることを目的として聴講を希望する者は学歴等の資格を問わない。
但し、科目によっては受講可否判定の学力試験を課す場合がある。
- ② 正科学生の教育に支障を生ずるおそれがないと認めうる場合に限り聴講生としての受講を認める。
- ③ 原則として実験・実習・実技を伴う科目の受講は認めない。
また、受講者数に制限のある科目については余裕のある場合に限り認める。
- ④ 聴講生は1年間に30単位を超えて受講することはできない。
- ⑤ 聴講期間は1年間とする。

2. 出願期間

通年・前期 3月11日～3月16日
後期 8月24日～8月31日
平日 9:00～16:00
土曜日 9:00～12:00

3. 手続方法

- ① 所定の用紙に必要事項を記入し、出願期間内に教務課へ提出すること。
 - ・志願票-1（本学所定の様式）
 - ・志願票-2（本学所定の様式）
 - ・履歴書（本学所定の様式、必ず写真貼付すること）
- ② 選考結果については、通年・前期の履修を希望する者は3月末日までに、後期の履修を希望する者は9月中旬までに通知する。
- ③ 受講を許可された者は、通知後、1週間以内に登録料及び受講料を納入し、併せて誓約書及び受講証用の写真（タテ4cm×ヨコ3cm）1枚を提出すること。手続完了後、聴講生証を交付する。

4. 登録料

10,000円

※休講及びやむを得ない事由により受講できない場合は、その責を負わず、原則として登録料は返還されない。

5. 聴講料

（1単位につき）6,250円

※休講及びやむを得ない事由により受講できない場合は、その責を負わず、原則として聴講料は返還されない。

6. その他

- ① 聴講科目の単位認定は行わない。
- ② 受講する際は、必ず聴講生証を携帯すること。期間の終了後、又は何等かの理由により受講を中止する時は、直ちに聴講生証を教務課へ返還すること。

転部・転科に関する細則

〔平成23年4月1日〕
制 定

(趣 旨)

第1条 この細則は、医療創生大学学則(昭和62年4月1日)第43条に基づき、他学部への転部及び他学科への転科に関し、必要な事項を定める。

(定員及び選考)

第2条 学科の定員に余裕のある場合に限り、志願先の学部は、転部・転科を認めることができる。

2 転部・転科を認める場合は、志願先の学部が選考を行う。

3 選考方法については、志願先の学部でこれを定める。

(出願資格)

第3条 転部・転科しようとする学生の転入学年及び出願資格については、志願先の学部で定める。

(出願手続)

第4条 志願者は、所定の転部・転科願及び出願書類に検定料を添え、志願する学部の学部長に提出しなければならない。

(転部・転科の許可)

第5条 転部・転科の許可は、志願先の学部教授会の議を経て学長が行う。

2 転部・転科を許可された者は、在籍学科の学科主任を通じて転部・転科届を在籍学部長に届け出なければならない。

3 転部・転科を許可された場合であっても、志願者が転部・転科する時点において出願資格を満たしていない場合は、転部・転科の許可は無効とする。

(在学年数)

第6条 志願者が転部・転科した際の在学年数は、転部・転科前に在籍した学部・学科の年数を通算することができる。ただし、修業年限が異なる学部・学科間での転部・転科の在学年数については別に定める。

(単位の認定)

第7条 志願者が転部・転科前に修得した単位の認定は、修得単位の認定に関する細則(昭和62年4月1日)を準用する。

(学 費 等)

第8条 第4条に規定する検定料は、別に定める。

2 志願者が転部・転科した際の授業料等学納金は、志願学部又は志願学科の当該年次に定められた額とする。

(雑 則)

第9条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は学長が定める。

(改 廃)

第10条 この細則の改廃は、大学評議会の議を経て学長が行う。

附則 この細則は、平成23年4月1日から施行する。

附則 この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附則 この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附則 この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附則 この細則は、平成31年4月1日から施行する。

再入学に係わる内規

第1条 再入学とは、大学を途中でやむを得ない理由により退学した者が、再び大学に戻る場合を言う。

第2条 再入学の許可は、退学理由等を審査し、教授会の議を経て学長が行う。ただし、退学後4年を経過している者にあつては学力検査を課すものとする。

第3条 再入学できる課程等は、当該希望者が退学時に所属していた学科等とする。ただし、退学時に所属していた学科等がない場合は、当該学科等に相当する学科等とする。

第4条 再入学できる学年は、当該希望者が退学時の学年またはそれ以下の学年とする。

第5条 再入学を許可された者の入学時期は、前期又は後期の学期の始めとする。

第6条 再入学を許可された者の、すでに修得した科目及び単位は、審査のうえ、その一部又は全部を認める。

第7条 再入学を許可された者の授業料等学納金は、再入学を許可された学籍のものとし、入学金は徴収しない。

学校法人医療創生大学 個人情報保護への取組みについて

個人情報保護方針（プライバシーポリシー）

1 基本方針

近年、社会の高度情報化に伴い、個人情報保護についての意識が世界的に高まってきており、わが国においても、平成17年4月1日より個人情報保護に関する法律が施行されました。学校法人医療創生大学（以下「本法人」という。）では、個人情報は個人の重要な財産であり、その適切な利用と保護は極めて重要であると捉え、本法人で業務に従事するすべての者が、個人情報保護に係る法令を遵守し、児童、生徒、学生及び保護者、教職員、卒業生等の個人情報を正確かつ安全に取扱うことにより、本法人関係者の個人情報を守り、社会の信頼に添えていきます。

2 組織体制

本法人は、基本方針を具体化するため、以下の活動を行います。

1. 業務に従事するすべての者は、個人情報に関する法令及びその他の規範を遵守します。
2. 個人情報統括責任者を選任し、本法人の個人情報の取扱いを統括させるとともに、運用に関する責任及び権限を与え、個人情報の適正な取扱いを確保します。
3. 個人情報管理責任者を各学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学）及び法人本部に選任し、学校及び法人本部における個人情報の適正な管理を行います。
4. 関係する個人及び企業等に対し、本基本方針の目的達成のための協力を要請します。
5. 本基本方針は、本法人のホームページ等に掲載することにより、いつでも閲覧可能な状態とします。
6. 本法人で定める個人情報保護に係る規程等を継続的に改善します。

3 個人情報の取扱い

【収集・目的】

個人情報の収集にあたり、その目的を明らかにするとともに、収集した個人情報の使用範囲を目的達成のために必要な限度に限定し、適切に取扱います。

【保管管理】

収集した個人情報は、本法人で定める規程等に則して、適切に保管・管理します。

【安全対策】

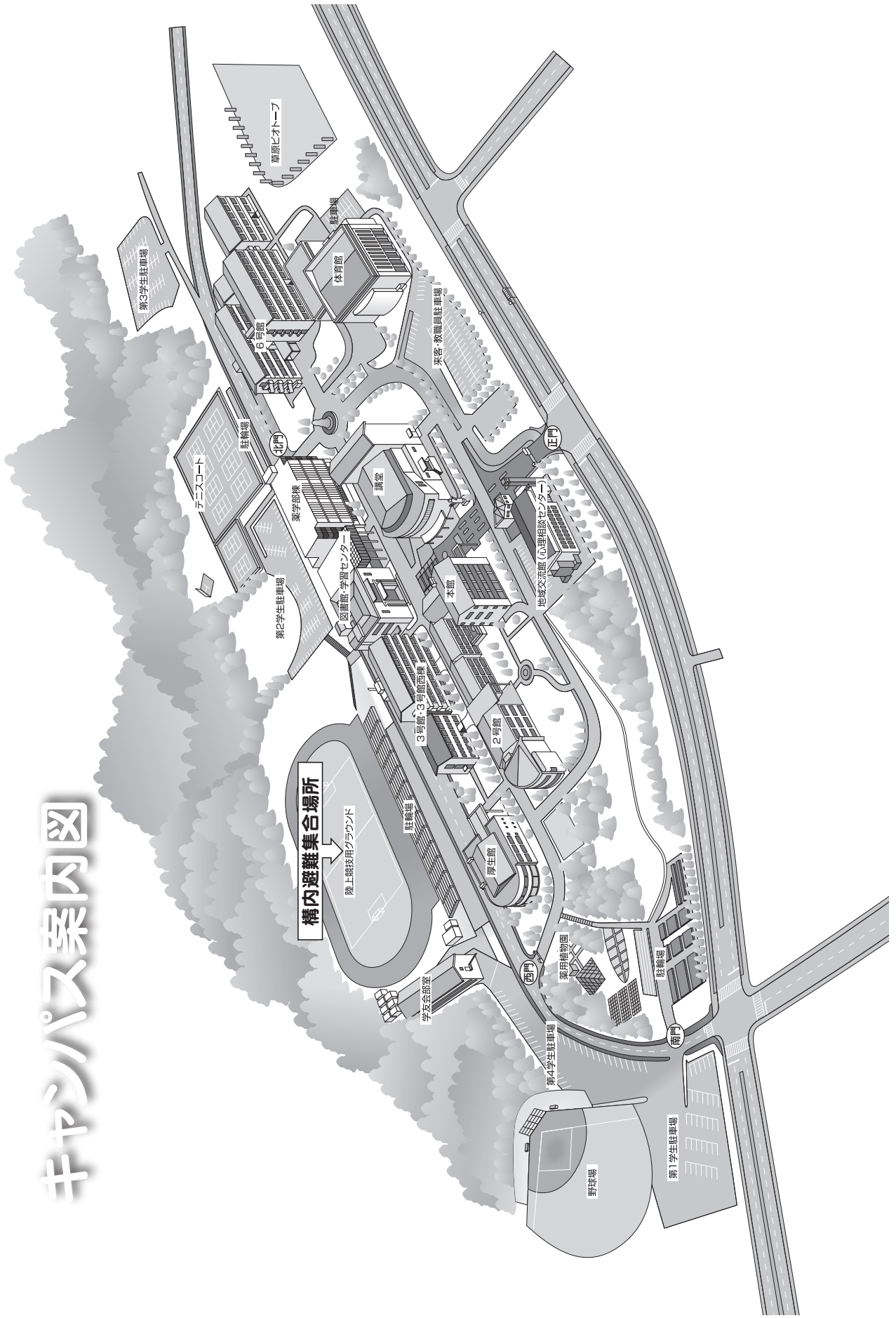
個人情報の正確性及び安全性を確保するため、情報セキュリティ対策をはじめとする安全対策を実施し、個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏洩等の予防に努めます。

以上

上記の内容を踏まえ、医療創生大学では、以下の目的で個人情報を取扱います。

- ① 本学の研究・教育に利用する。
- ② 学生の指導・助言に利用する。
- ③ 本学の教育改革・教育改善に利用する。

キャンパス案内図



卒業まで大切に保管しましょう!

1. 「履修の手引」は、みなさんが学業を進めていくうえで必要不可欠な、履修に関する事項を収録したものです。卒業時まで使用します。
2. 「履修の手引」は、入学時にのみ配付するものです。紛失した場合の再配付はいたしませんので、卒業するまで大切に保管して下さい。
3. 「履修の手引」は、履修ガイダンスおよび履修登録(変更)期間には、必ず持参して下さい。
4. 「履修の手引」の内容の一部が変更されることがあります。その場合は、変更部分のみの資料配付、または掲示等でお知らせします。

履修の手引 (薬学部)

2019年度入学者用

2019年4月1日 発行

医療創生大学

〒970-8551

福島県いわき市中央台飯野5-5-1

TEL 0246(29)5111(代)

非売品

再配付しませんので、必ず名前を書きましょう。

学籍番号	Y	1	9		
氏名					